

理学療法学科 昼間部			令和2年度改定新カリキュラム							
ページ	授業科目	講師	1年		2年		3年		4年	
			単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
1	哲学	米村 豊	2	30						
2	教育学	米村 豊	2	30						
3	情報科学	下村 周平	2	30						
4	物理学	鈴木 忠幸	2	30						
5	保健体育	鍋城 武志・川崎 有子	2	30						
6	人間関係学	鍋城 武志・教職員	2	30						
7	解剖学Ⅰ	春原 正隆	1	30						
8	解剖学Ⅱ	春原 正隆	1	30						
9	解剖学Ⅲ	春原 正隆	1	30						
10	解剖学実習	岩田 衣世	1	30						
11	機能解剖学Ⅰ	村井・石垣・内山	1	30						
12	機能解剖学Ⅱ	村井・石垣・土手	1	30						
13	生理学Ⅰ	黒澤 美枝子	1	30						
14	生理学Ⅱ	黒澤 美枝子	1	30						
15	生理学Ⅲ	小平 健太郎	1	30						
16	生理学実習	渡辺 信博	1	30						
17	運動学Ⅰ	臼杵 寛・土手 延恭	1	30						
18	運動学Ⅱ	臼杵・木下・土手	1	30						
19	人間発達学	黒木 光	1	30						
20	リハビリテーション医学概論Ⅰ	草野 修輔	2	30						
21	理学療法概論	高林 礼子	2	30						
22	PBLセミナーⅠ	塚本・高林 他	1	30						
23	理学療法セミナーⅠ	佐藤・高橋・保坂	2	60						
24	検査測定法Ⅰ【バイタル・形態】	木下 修・塩澤 和人	1	30						
25	検査測定法Ⅱ【MMT・ROM】	高橋・木下・保坂	2	45						
26	運動療法学Ⅰ	吉葉 則和	1	30						
27	運動療法学Ⅱ	村井 敦士・内山 結城	1	30						
28	日常生活活動学Ⅰ	鍋城 武志	1	30						
29	臨床見学実習Ⅰ	PT学科教員	1	45						
30	心理学	鈴木 康弘			2	30				
31	運動生理学	高林 礼子			1	30				
32	運動学実習	吉葉 則和			1	45				
33	生涯発達概論	黒木 光			1	15				
34	病理学概論	ブルカット・アルミラ			2	30				
35	臨床心理学	鈴木 康弘			2	30				
36	内科学・老年学Ⅰ	佐久間 肇			2	30				
37	内科学・老年学Ⅱ	佐久間 肇			2	30				
38	整形外科Ⅰ	植松 卓哉（代表）			2	30				
39	整形外科Ⅱ	植松 卓哉（代表）			2	30				
40	神経内科学	田口 丈士			2	30				
41	小児科学	高木 篤史 他			1	15				
42	理学療法セミナーⅡ	高瀬 慎輔			2	60				
43	検査測定法Ⅲ【反射・中枢】	塩澤 和人・佐藤 和世			2	45				
44	検査測定法Ⅳ【整形・動作】	土手 延恭			1	30				
45	PBLセミナーⅡ	塚本・高林 他			1	30				

46	物理療法Ⅰ	篠田 良平			1	30				
47	日常生活活動学Ⅱ	鍋城 武志			1	30				
48	疾患別理学療法Ⅰ－A【整形・脊損】	木下 修・塚本 奈々子			1	30				
49	疾患別理学療法Ⅰ－B【整形】	土手 延恭			1	30				
50	疾患別理学療法Ⅱ－A【中枢】	佐藤 和世			1	30				
51	疾患別理学療法Ⅱ－B【高齢者】	高林 礼子			1	15				
52	疾患別理学療法Ⅲ－A【神経内科】	塚本 奈々子			1	30				
53	疾患別理学療法Ⅲ－B【神経内科】	塚本 奈々子			1	30				
54	疾患別理学療法Ⅳ－A【呼吸器】	鍋城 武志			1	30				
55	疾患別理学療法Ⅳ－B【循環器・代謝】	高瀬 慎輔			1	30				
56	理学療法技術論Ⅰ【関節】	黒木 光			1	30				
57	理学療法技術論Ⅳ【PNF】	内山 結城			1	30				
58	臨床見学実習Ⅱ	PT学科教員			1	45				
59	医学英語	黒木 豊域					2	30		
60	解剖学Ⅳ	PT学科教員					1	30		
61	社会学	千田 佳遠里			2	30				
62	精神医学	河邊 宗知					2	30		
63	リハビリテーション医学概論Ⅱ	高瀬 慎輔・石川 秀志					2	30		
64	公衆衛生	今井 敏夫					1	15		
65	総合セミナー	高瀬 慎輔					2	30		
66	病態運動学	塩澤 和人					2	30		
67	理学療法研究法	高林 礼子					1	15		
68	専門基礎医学演習Ⅰ	PT学科教員					2	30		
69	検査測定セミナー	内山 結城・塚本 奈々子					1	30		
70	運動動作解析学	佐藤 和世・塩澤 和人					1	30		
71	P B LセミナーⅢ	塚本・高林 他					1	30		
72	義肢装具学Ⅰ	木下 修・石垣 栄司					1	30		
73	義肢装具学Ⅱ	石垣 栄司					1	30		
74	疾患別理学療法Ⅴ【脳性麻痺】	村木 正昭					1	30		
75	理学療法技術論Ⅱ【筋膜】	畠山・村井・石垣					1	30		
76	理学療法技術論Ⅲ【軟部組織】	黒木 光 他					1	30		
77	理学療法技術論Ⅴ【中枢】	佐藤 和世					1	30		
78	スポーツ臨床治療学	橋本 悠太					1	15		
79	理学療法管理学	臼杵 寛・下村 周平					2	30		
80	地域理学療法学	下村 周平					2	30		
81	地域理学療法演習	下村 周平・臼杵 寛					1	15		
82	生活環境論	高林 礼子					2	30		
83	臨床実習Ⅰ【評価】	PT学科教員					8	360		
84	専門基礎医学演習Ⅱ	PT学科教員							2	30
85	理学療法特論Ⅰ	PT学科教員							2	60
86	理学療法特論Ⅱ	PT学科教員							2	60
87	理学療法特論Ⅲ	PT学科教員							2	60
88	理学療法特論Ⅳ	PT学科教員							2	60
89	臨床実習Ⅱ【総合】	PT学科教員							16	720
			39	930	41	930	40	990	26	990

科目	哲学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	米村 豊	学 年	1年生 前期
実績経験	資格		
	理学療法士 教職（社会）		

授業の位置づけ	医療倫理をはじめ、リハビリテーションに必要な哲学的思考と実践について学んでいく。種々の社会的問題に関して、哲学的思考を深められるようにする。対話を通してコミュニケーションについても考えていく。この授業を通して、論理的思考・哲学的思考が実践できることを目指す。		
到達目標	倫理や社会問題に関わる重要な概念や論点を踏まえながら、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。演習を通して哲学的思考、コミュニケーションを実践することができる。		
授業形態	講義・グループワーク	遠隔授業とする可能性があります	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、哲学的思考とは何か
2回	医療倫理	医療職として医療倫理を考える
3回		理学療法士として医療倫理を考える
4回		患者側として医療倫理を考える
5回	権利	権利に関してグループワークを通じて哲学的思考を深める
6回		
7回	復讐・罰	復讐や罰に関してグループワークを通じて哲学的思考を深める
8回		
9回	権威・言葉	権威・言葉に関してグループワークを通じて哲学的思考を深める
10回		
11回	差別	性差別・人種差別に関してグループワークを通じて哲学的思考を深める
12回		
13回	知識・真実	知識・真実に関してグループワークを通じて哲学的思考を深める
14回		
15回	まとめ	医療に求められる哲学的思考を考える

成績評価	①各講義に対する課題の提出状況（40%） ②学期末レポートの評価（60%） 状況により修正あり	受講上のルール・留意点	学期末レポートでは、それまでの授業で行われた議論を踏まえた上で、皆さん自身で感じたこと・考えたことを記載してもらいます。実際の授業の進行状況を見ながら修正を行っていく場合があります。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
適宜

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談		

科目	教育学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	米村 豊	学 年	1年生 前期
実績経験	資格		
	理学療法士 教職（社会）		

授業の 位置づけ	医学教育（教育学、臨床教育学、人間発達学、教育心理学など）を中心に社会人、医療従事者、理学療法士として必要な思考やマインドについて学んでいく。 対話を通してコミュニケーションについても考えていく。 この授業を通して、医学教育の知識を学び、実践で実施できることを目指す。		
到達目標	自分自身の理解をはじめ、社会における医療のあり方、医療従事者として何が必要かなどについて自身の考えを深め適切に表現することができる。 演習を通して種、々の思考やコミュニケーションを実践することができる。		
授業形態	講義・グループワーク	遠隔授業とする可能性があります	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、教育学・医学教育を学ぶ意義
2回	内省	自分・他人のアイデンティティについて理解を深める 対話を通じて他者との違いについて理解を深める
3回		
4回	聴くこと、伝えること	「聴くこととは、伝えることとは」について理解を深める 対話やグループワークを通じて実践できるようにする
5回		
6回	マインドセット	マインドセットとはなにか、成長マインドのためには何が必要かを学ぶ
7回		
8回	仕事論	社会人として、医療従事者として人生100年時代をどう生き抜くべきかを学ぶ
9回		
10回	思考法	医療（おもにリハビリ）の実践において必要な思考方法について学ぶ 問題解決能力のために必要な思考力をグループワークを通じて養う
11回		
12回	認知	人の認知機能の特徴について学ぶ 自分自身の認知にかかわる理解と問題解決方法を実践する
13回		
14回	合意形成	合意形成とは何か、グループワークを通じてその実際を学ぶ
15回	まとめ	患者支援を実践できる方法をまとめる

成績評価	①各講義に対する課題の提出状況（40%） ②学期末レポートの評価（60%） 状況により修正あり	受講上のルール・留意点	学期末レポートでは、それまでの授業で行われた議論を踏まえた上で、皆さん自身で感じたこと・考えたことを記載してもらいます。実際の授業の進行状況を見ながら修正を行っていく場合があります。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
適宜

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談		

科 目	物理学		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	鈴木 忠幸		学 年	1年生 前期
実績経験	資格			
	博士（理学）			

授業の位置づけ	1．専門科目を理解するために必要な物理学の知識の習得する。 2．現実の場面で科学的な物の見方ができるようになること。		
到達目標	1．力学を中心に物理学を理解する。 2．物理学（力学）に関連した国家試験の問題に対応できるようになる。		
授業形態	講義	オンデマンド授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	物理量と単位	物理学で扱う量とその特徴，単位
2回	力(1)	力の表示法、いろいろな力、力の合成法とその応用
3回	力(2)	力の分解法とその応用、力の例（牽引、摩擦）
4回	力のモーメント(1)	力のモーメントとは、力のモーメントの応用(1)
5回	力のモーメント(2)	力のモーメントの応用(2)（重心の求め方）、人体の重心
6回	安定・不安定	物体の倒れる条件、安定状態の例、反力について
7回	てこ(1)	てことは、第一、第二のてこと生体内の例
8回	てこ(2)	第三のてこと生体内の例、てこに関する問題
9回	背中・腰に働く力	背中の筋肉や腰に働く力、筋の収縮様式
10回	滑車と輪軸	定滑車、動滑車、輪軸の特徴と問題
11回	圧力	圧力の表記、気圧、水圧、体圧に関する物理、これまでの復習問題
12回	物体の運動(1)	位置と変位、速度、加速度
13回	物体の運動(2)	運動の三法則、仕事、仕事率（並進運動）
14回	物体の運動(3)	仕事率（回転運動）、力学的エネルギー
15回	物体の運動(4)	運動量と撃力、これまでの復習問題

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	毎回課題提出にて出欠を確認（Google Classroom）
------	----------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
毎回の授業にて課題を提出

	書名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	PT・OTゼロからの物理学 PT・OT臨床につながる物理学 PT・OT・PO身体運動の理解につなげる物理学	望月久、棚橋伸雄 望月久、棚橋伸雄 江原義弘、山本澄子、中川昭夫	羊土社 羊土社 南江堂
オフィスアワー	質問があれば事務局の教務担当に連絡してください		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	保健体育	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	鍋城 武志、川崎 有子	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	鍋城武志 実務経験22年 急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士	川崎有子 実務経験：柔道整復師・鍼灸師として25年、柔道経験 3 8 年（講道館柔道四段）鍼灸接骨院、整形外科、介護福祉施設、教育機関に勤務した経験を活かし講義を行う。	

授業の位置づけ	スポーツの必要性や安全性を理解し、数種目の実践を通しスポーツの楽しさを味わったり、クラスメイトとの関係性、協調性を深める生涯スポーツの意義を理解し、スポーツへの動機付けを図る。また、障がい者や加齢に応じたスポーツの段階付けやルールを理解する。		
到達目標	チーム競技を行いスポーツの楽しさを経験する 運動したときの身体の動きを確認、生理学的変化を経験する		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス 運動の有効性、リスク	ガイダンス 運動の有効性、リスク管理
2回	チーム競技①	バスケットボール
3回	チーム競技①	バスケットボール
4回	チーム競技②	フットサル、ウォーキングサッカー
5回	チーム競技②	フットサル、ウォーキングサッカー
6回	動作観察分析	動作の観察・分析について
7回	動作観察分析	動作の観察・分析について
8回	運動生理	運動による生理学的変化を学ぶ
9回	運動生理	運動による生理学的変化を学ぶ
10回	障がい者スポーツ①	障がい者スポーツの歴史、競技の理解
11回	障がい者スポーツ②	障がい者スポーツの疑似体験
12回	柔道から学ぶ医療礼節 コミュニケーションと 人間力	立礼の理解と実践 医療コミュニケーションとは 信頼関係を築くために必要なこと（グループワーク）
13回	柔道に必要なトレーニング 外傷予防とコンディショニング ケア	基礎運動、受身 ケガの予防プログラムを考える（グループワーク） 動的・静的ストレッチ 発表
14回	総合演習①	運動が身体にもたらす影響についてのまとめ①
15回	総合演習②	運動が身体にもたらす影響についてのまとめ②

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中する。 実技では動きやすい服装を準備する。また空いた時間は繰り返し復習する。
------	------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	配布資料を用いる		
オフィスアワー	担当授業の前後		

理学療法学科 昼間部			
科目	人間関係学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	鍋城武志、教職員	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	鍋城武志 実務経験22年 急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	対人援助職を志す皆さんにとって、人間関係やコミュニケーションを学ぶことは必須です。この講義では、人間関係やコミュニケーションにおける基礎的な部分を扱います。 対人援助の基本、自分の特性を知る、コミュニケーションとは、実践に関して座学、演習などを用いて学習し、臨床での実践力をやしなう。後半では臨床現場を想定した演習を実施し、臨床実習等に向けてスキルをやしなう。		
到達目標	基礎的なコミュニケーションについて学習する 臨床現場におけるコミュニケーションの重要性を知る		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	コミュニケーションについて	対人援助職とは
2回	コミュニケーションについて	自分、他者を知る
3回	リーダーシップ、チーム	集団の形とリーダーシップについて
4回	リーダーシップ、チーム	集団の形とリーダーシップについて
5回	コミュニケーションの基本的知識	言語的、非言語的コミュニケーション
6回	医療者になるために必要なこと	メタ認知、自立と自律
7回	相手を知るための観察①	観察の仕方、聞き方、伝え方
8回	相手を知るための観察②	観察の仕方、聞き方、伝え方
9回	自分に出会う	自己理解
10回	社会における対人関係	期待されるものと自己の能力向上
11回	法的制約	情報，プライバシー，守秘義務，著作権など
12回	コーチングスキル	コーチングの理論とスキルなど
13回	動機づけと人間関係	動機づけの要素、環境要因など
14回	実習で求められる学生像	学生の行動をロールプレイ
15回	実習で求められる学生像	学生の行動をロールプレイ

成績評価	課題レポート100%	受講上のルール 留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中し、演習等は積極的に参加することが望ましい。
------	------------	----------------	---------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド	山口美和	医学書院
オフィスアワー	「授業前後の休憩時間」		

理学療法学科 昼間部			
科 目	解剖学Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	春原 正隆	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	大学では科目責任者として、人体解剖学の講義・実習を担当しております。座学で学んだ知識を、人体解剖学実習見学を通して三次元的に理解し、将来の臨床に是非とも役立てて頂きたいと考えております。	
	歯科医師・博士（医学）		

授業の位置づけ	理学療法士に必要な解剖学的基礎知識を修得するため、人体を構成する諸器官を系統別に認識し、人体各部位の骨格および関節・靱帯を3次的に理解する。		
到達目標	1) 基礎医学の最重要科目である解剖学の定義や目的を説明できる。 2) 人体の構成要素および発生仕組みについて説明できる。 3) 運動器系を構成する人体各部位の骨の名称および関節の構成や形態的特徴および働きを説明できる。		
授業形態	講義		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	解剖学総論	解剖学とは（定義・目的），解剖学用語，人体の区分，人体の腔所（p. 3～8）
2回	人体の構成	細胞，組織，器官・器官系・個体（p. 9～20）
3回	人体の発生①	胚子の発生，器官系の発生①（p. 21～34）
4回	人体の発生②	器官系の発生②，胎児の発生，出生後（p. 24～36）
5回	骨格総論	骨の形態，骨の構造，骨の血管と神経，骨の機能，骨の発生，骨のモデリング（p. 37～45）
6回	骨格各論①	頭蓋骨（p. 46～57）
7回	骨格各論②	脊柱，胸郭（p. 58～67）
8回	骨格各論③	上肢の骨（p. 68～77）
9回	骨格各論④	下肢の骨（p. 78～92）
10回	関節靱帯総論	骨の連結，関節の構造と機能（p. 97～112）
11回	関節靱帯各論①	頭蓋の連結，脊柱，脊柱と頭蓋および胸郭の連結（p. 113～122）
12回	関節靱帯各論②	上肢の連結①（p. 123～136）
13回	関節靱帯各論③	上肢の連結②（p. 123～136）
14回	関節靱帯各論④	下肢の連結①（p. 137～154）
15回	関節靱帯各論⑤	下肢の連結②（p. 137～154）

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を認定しない
------	------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	奈良 勲 / 鎌倉 矩子	医学書院
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	解剖学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	春原 正隆	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	大学では科目責任者として人体解剖学の講義・実習を担当しております。座学で学んだ知識を、人体解剖学実習見学を通して三次元的に理解し、将来の臨床に是非とも役立てて頂きたいと考えております。	
	歯科医師・博士（医学）		

授業の位置づけ	理学療法士に必要な解剖学的知識を修得するため，人体を構成する諸器官を系統別に認識して，人体各部の筋系および神経系を中心に講義を通して理解する。		
到達目標	1) 生体を構成する各筋の名称を列挙し、筋の形態的特徴、起始・停止および作用を説明できる。 2) 神経系の構成および中枢・末梢神経の区分が説明できる。 3) 脳・脊髄の形態的特徴や働きが説明できる。 4) 各脳神経の名称、構造、分布、働きおよび特徴について説明できる。		
授業形態	講義		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	筋系総論①	筋組織の種類と特徴，骨格筋の構造（p. 161～170）
2回	筋系総論②	骨格筋の作用，骨格筋の神経支配（p. 171～176）
3回	筋系各論①	体幹の筋①（p. 177～195）
4回	筋系各論②	体幹の筋②（p. 177～195）
5回	筋系各論③	上肢の筋①（p. 196～210）
6回	筋系各論④	上肢の筋②（p. 196～210）
7回	筋系各論⑤	下肢の筋①（p. 211～227）
8回	筋系各論⑥	下肢の筋②（p. 211～227）
9回	神経系総論①	神経系の区分，神経系の構成（p. 229～234）
10回	神経系総論②	髄膜と脳室系，神経系の発生（p. 235～240）
11回	中枢神経系①	脊髄，脳幹①（p. 241～251）
12回	中枢神経系②	脳幹②，小脳（p. 245～255）
13回	中枢神経系③	大脳（p. 256～267）
14回	末梢神経系①	脳神経①（p. 300～310）
15回	末梢神経系②	脳神経②，自律神経系（p. 300～314）

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を認定しない
------	------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		医学書院
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	春原 正隆	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	大学では科目責任者として、人体解剖学の講義・実習を担当しております。座学で学んだ知識を、人体解剖学実習見学を通して三次元的に理解し、将来の臨床に是非とも役立てて頂きたいと考えております。	
	歯科医師・博士（医学）		

授業の位置づけ	理学療法士に必要な解剖学的知識を修得するため、人体を構成する諸器官を系統別に認識して、神経系や感覚器系、内臓器系を中心に講義を通して3次元的に理解する。		
到達目標	1) 脊髄神経の構成および分布、働きについて説明できる。 2) 神経系の主要な伝導路について説明できる。 3) 各種感覚器の種類、形態的特徴および働きについて説明できる。 4) 体循環・肺循環および心臓の基本構造について説明できる。 5) リンパの流路およびリンパ節の構造が説明できる。 6) 消化管と消化腺の区分ができ、各臓器の形態的特徴および働きが説明できる。 7) 呼吸器・泌尿器の構成および内分泌腺・各種ホルモンについて説明できる。		
授業形態			

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	末梢神経系③	脊髄神経①（p. 278～300）
2回	末梢神経系④	脊髄神経②（p. 278～300）
3回	中枢神経系④	神経路（p. 268～277）
4回	感覚器系①	外皮，視覚器（p. 319～326）
5回	感覚器系②	平衡聴覚器，嗅覚器，味覚器（p. 326～330）
6回	循環器系①	血管系①（総論）（p. 335～340）
7回	循環器系②	血管系②（動脈）（p. 341～349）
8回	循環器系③	血管系③（静脈，リンパ系）（p. 350～357）
9回	呼吸器系①	鼻，咽頭，喉頭（p. 360～365）
10回	呼吸器系②	気管と気管支，肺，胸膜と縦隔（p. 366～369）
11回	内臓器系総論 消化器系①	内臓器官の基本構造（p. 333～334） 消化管（口腔，咽頭，食道，胃，小腸，大腸）（p. 370～377）
12回	消化器系②	消化腺（肝臓，胆嚢，膵臓，腹膜）（p. 378～380）
13回	泌尿生殖器系①	泌尿器系（p. 384～389）
14回	泌尿生殖器系②	生殖器系（p. 390～396）
15回	内分泌系	ホルモンと標的器官，内分泌腺の種類（p. 398～404）

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を認定しない
------	------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		医学書院
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	解剖学実習	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	岩田 衣世	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	医学部の肉眼解剖学実習・神経解剖学実習の指導経験を活かし、講義を行う	
	博士（農学）		

授業の位置づけ	人体の基本的構造・機能について理解する。本講義では特に神経系・感覚器について学ぶ。		
到達目標	神経系・感覚器について基本的構造と機能について説明できる。		
授業形態	講義	併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	神経系総論1	神経系の組織学・神経系の肉眼的区分
2回	神経系総論2	髄膜と脳室系、神経系の発生
3回	中枢神経系1	脊髄
4回	中枢神経系2	脳幹（延髄、橋、中脳）
5回	中枢神経系3	小脳
6回	中枢神経系4	大脳（1）間脳、終脳
7回	中枢神経系5	大脳（2）大脳皮質の局在性
8回	神経路	上行性、下行性
9回	末梢神経系1	脊髄神経（頸神経叢、腕神経叢、胸神経）
10回	末梢神経系2	脊髄神経（腰神経叢、仙骨神経叢）
11回	末梢神経系3	脳神経（I～VI）
12回	末梢神経系4	脳神経（VII～XII）
13回	末梢神経系5	自律神経系
14回	感覚器1	皮膚、視覚
15回	感覚器2	聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚

成績評価	試験で評価（基本的に試験60点以上で合格とする）	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	--------------------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
必要があればコメントする

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	編集 野村 嶺	医学書院
参考書	人体の正常構造と機能（縮刷版）	坂井 建雄	日本医事新報
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科 昼間部			
科目	機能解剖学Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	村井 敦士 石垣 栄司 内山 結城	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	村井：1992年理学療法士免許取得 経験年数32年。 10年病院勤務後、はり灸あん摩マッサージの免許を取得。 治療院開業後、2015年から教員勤務。	
	理学療法士 はり師・灸師・あん摩マッサージ指圧師		

授業の位置づけ	・将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高い。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認しく。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 ・講義は2～3人一組で実技を行う。		
到達目標	・講義を通して筋肉の起始・停止を理解できるようにする。その中で3次的に筋肉がどのように走向しているかを学んでいく。 ・IDストレッチングを通して関節の動きを理解する。		
授業形態	講義・実習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	触察の方法と注意
2回	肩甲骨の講義・演習	肩甲骨の触察
3回	小円筋の講義・演習	小円筋の触察とIDストレッチング
4回	棘下筋の講義・演習	棘下筋の触察とIDストレッチング
5回	大円筋の講義・演習	大円筋の触察とIDストレッチング
6回	三角筋の講義・演習	三角筋後部線維の触察とIDストレッチング
7回	上腕三頭筋の講義・演習	上腕三頭筋長頭の触察とIDストレッチング
8回	胸郭の講義・演習	棘突起・肋骨の触察
9回	菱形筋の講義・演習	大・小菱形筋の触察とIDストレッチング
10回	肩甲挙筋の講義・演習	肩甲挙筋の触察とIDストレッチング
11回	僧帽筋の講義・演習	僧帽筋上部線維の触察とIDストレッチング
12回		僧帽筋中・下部線維の触察とIDストレッチング
13回	大胸筋の講義・演習	大胸筋鎖骨部の触察とIDストレッチング
14回	上腕二頭筋の講義・演習	上腕二頭筋の触察とIDストレッチング
15回	前腕筋の講義・演習	前腕筋の触察とIDストレッチング

成績評価	実技・口頭試問85% 授業中の実技小テスト15%	受講上のルール・留意点	・講義時間数の2/3以上出席していない者には単位を与えない。 ・講義はジャージ等の動きやすい服装で出席する。 - デニム、チノパン等で参加した場合は減点とする。 - また、指輪、ピアス、時計等のアクセサリーをつけていた場合も減点とする（結婚指輪は良い）。
------	-----------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	IDストレッチング 第2版	鈴木 重行（編集）	三輪書店
	最新カラーリングブック 筋骨格系の解剖学	ジョセフ・E・マスコリーノ 高田 治実	産調出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科 昼間部			
科目	機能解剖学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	村井 敦士 石垣 栄司 土手 延恭	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	村井：1992年理学療法士免許取得 経験年数32年。 10年病院勤務後、はり灸あん摩マッサージの免許を取得。 治療院開業後、2015年から教員勤務。	
	理学療法士 はり師・灸師・あん摩マッサージ指圧師		

授業の位置づけ	・将来、理学療法士として働くうえで、筋骨格を理解する必要性は極めて高い。2次元でとらえがちな解剖学を、骨指標を基に3次元で捉え、実際に確認していく。主に体表解剖および筋の起始・停止・走行を確認する。 ・講義は2～3人一組で実技を行う。		
到達目標	筋を触察し異常部位を見つけることができる		
授業形態	講義・実習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	肩甲骨・骨盤の講義・演習	肩甲骨・骨盤の触察
2回	骨盤・大転子の講義・演習	骨盤・大転子の触察
3回	広背筋の講義・演習	広背筋の触察とIDストレッチング
4回	腰方形筋の講義・演習	腰方形筋の触察とIDストレッチング
5回	大殿筋の講義・演習	大殿筋の触察とIDストレッチング
6回	中殿筋の講義・演習	中殿筋の触察とIDストレッチング
7回	梨状筋講義・演習	梨状筋の触察とIDストレッチング
8回	半腱様筋の講義・演習	半腱様筋の触察とIDストレッチング
9回	半膜様筋の講義・演習	半膜様筋の触察とIDストレッチング
10回	大腿二頭筋の講義・演習	大腿二頭筋の触察とIDストレッチング
11回	大腿筋膜張筋の講義・演習	大腿筋膜張筋の触察とIDストレッチング
12回	縫工筋の講義・演習	縫工筋の触察とIDストレッチング
13回	大腿直筋の講義・演習	大腿直筋の触察とIDストレッチング
14回	前脛骨筋講義・演習	前脛骨筋の触察とIDストレッチング
15回	下腿三頭筋講義・演習	下腿三頭筋の触察とIDストレッチング

成績評価	実技・口頭試問85% 授業中の実技小テスト15%	受講上のルール・留意点	・講義時間数の2/3以上出席していない者には単位を与えない。 ・講義はジャージ等の動きやすい服装で出席する。 デニム、チノパン等で参加した場合は減点とする。 また、指輪、ピアス、時計等のアクセサリーをつけていた場合も減点とする（結婚指輪は良い）。
------	-----------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	IDストレッチング 第2版	鈴木 重行（編集）	三輪書店
	最新カラーリングブック 筋骨格系の解剖学	ジョセフ・E・マスコリーノ 高田 治実	産調出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科 昼間部			
科目	生理学 I	単位・時間数	1単位 ・30時間
担当講師	黒澤 美枝子	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	生理学の研究経験と、大学において理学療法学科の生理学講義と生理学実習を長年担当してきた教育経験とを活かし、わかりやすく、しかも理学療法士の基礎知識として将来役立つ講義を目指したいと思います。	
	大学教員		

授業の位置づけ	教科書の内容に沿って講義します。生理学 I で学ぶ「神経系（神経系一般、運動、自律神経系、感覚）」は、生理学の他分野の消化器や泌尿器などと違いイメージしづらく、初めて生理学を学ぶ者にとっては、理解が難しい内容も多く含まれると思います。しかし、国家試験で出題される頻度が高く、また、ほかの教科との関連も深い分野となります。そのため、生理学全体のなかで多くの時間をこの神経系にとり、一つ一つ丁寧に解説していきたいと思います。		
到達目標	人体の生理機能のうち、動物機能（神経系・筋・運動・感覚）について理解し、基礎知識を身につける。		
授業形態	講義	主に遠隔授業 (場合により対面と遠隔の併用授業)	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	身体の成り立ち、生体恒常性、細胞、物質代謝
2回	神経系一般（１）	神経系の分類、ニューロンの機能（膜電位）
3回	神経系一般（２）	ニューロンの機能（活動電位の発生と伝導、シナプス伝達）
4回	神経系一般（３）	ニューロンの機能（シナプス伝達の可塑性）、中枢神経機能概論
5回	筋	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、筋のエネルギー供給の仕組み
6回	運動（１）	骨格筋の運動神経支配、運動単位
7回	運動（２）	骨格筋の受容器と感覚神経，運動反射（１）
8回	運動（３）	運動反射（２）
9回	運動（４）	運動の調節（脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質）
10回	自律神経系（１）	自律神経系一般、自律神経による調節の特徴
11回	自律神経系（２）	自律神経系の中樞、反射
12回	感覚（１）	感覚一般、体性感覚（１）
13回	感覚（２）	体性感覚（２）、特殊感覚（１）
14回	感覚（３）	特殊感覚（２）
15回	総復習	これまでのまとめ、定期試験について

成績評価	①講義毎に実施する課題 （リアクションペーパーの提出など） 10% ②定期試験 90%	受講上のルール・留意点	①毎回講義の最後に課題を出し、講義終了後、提出していただきます。（授業の進み具合によって変更あり）。 ②すべての講義終了後に定期試験を実施します。また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは講義内で全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	生理学Ⅱ	単位・時間数	1単位 ・30時間
担当講師	黒澤 美枝子	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	生理学の研究経験と、大学において理学療法学科の生理学講義と生理学実習を長年担当してきた教育経験とを活かし、わかりやすく、しかも理学療法士の基礎知識として将来役立つ講義を目指したいと思います。	
	大学教員		

授業の位置づけ	教科書の内容に沿って講義します。生理学Ⅱでは植物機能全般（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌・生殖）を学びます。生理学Ⅱでは生理学Ⅰで勉強した「神経系」が各機能の調節として再び出てきます。範囲が広い分1回の授業で実施する容量も多いです。そのため、各分野で特に重要な点を中心に解説していきたいと思います。生理学Ⅰと生理学Ⅱで教科書1冊を学び終えます。		
到達目標	人体の生理機能のうち、植物機能（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌・生殖）について理解し、基礎知識を身につける。		
授業形態	講義	主に遠隔授業 (場合により対面と遠隔の併用授業)	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	血液	血液の組成と働き、血球の生成・分化、止血作用
2回	生体の防御機構	白血球の機能、自然免疫、獲得免疫
3回	循環（１）	心血管系、心臓の構造と機能
4回	循環（２）	血液循環、循環の調節
5回	呼吸（１）	ガス交換と運搬
6回	呼吸（２）	呼吸運動，肺気量
7回	消化と吸収（１）	消化管の運動、排便
8回	消化と吸収（２）	消化液の分泌、栄養素の吸収
9回	栄養・代謝	栄養素の働きと代謝
10回	体温	産熱と放熱，体温調節
11回	排泄	腎臓の尿生成機構、蓄尿と排尿
12回	内分泌（１）	ホルモンの分類、特徴
13回	内分泌（２）	各ホルモンの種類とその働き（１）
14回	内分泌（３）	各ホルモンの種類とその働き（２）
15回	総復習	これまでのまとめ、定期試験について

成績評価	①講義毎に実施する課題 （リアクションペーパーの提出など） 10% ②定期試験 90%	受講上のルール・留意点	①毎回講義の最後に課題を出し、講義終了後、提出していただきます。（授業の進み具合によって変更あり）。 ②すべての講義終了後に定期試験を実施します。また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは講義内で全体に実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科				昼 間 部	
科 目	生理学Ⅲ			単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	小平 健太郎			学 年	1年生 後期
実績経験	資格		運動と健康に関わる現実的課題に対して、これまでトレーニングコーチとして運動選手から一般の方への運動指導経験を講義に反映して展開する。保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復 等）部門で生理学授業を担当している教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について日常生活からの視点を例示しながら講義を実施する。		
	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士				
授業の位置づけ	少子高齢化、健康長寿は今後ますます重要になる課題である。運動が身体にもたらす好影響は挙げられているが、適切なものでなくては逆効果にもなってしまうリスクも持っている。運動時の反応や調節作用を理解することで適切に運動を活用することができる。生理学Ⅰ、Ⅱの内容をベースに運動時にみられる調節反応を説明し、演習や動画教材も活用して解説する。 講義ならびに、演習・グループワークを併用して実施する。				
到達目標	①筋収縮に伴うエネルギー代謝を説明できる、②運動に伴う呼吸循環系の適応を説明できる ③筋力発揮に影響を与える要因について説明できる、④運動刺激に応じた内分泌調節を説明できる ⑤環境が運動に与える影響を説明できる、⑥運動と発育発達、加齢老化について説明できる ⑦目的に応じた運動処方の概要を説明できる				
授業形態	講義・演習			対面と遠隔の併用授業	
授業計画					
回数	項目		講義内容		
1回	運動の必要性、体力		運動に求められているもの、体力要素の分類		
2回	エネルギー供給系①		筋収縮とエネルギー供給経路		
3回	エネルギー供給系②		エネルギー基質の回復、運動と栄養		
4回	運動と呼吸循環系①		運動に伴う呼吸循環系の調節・適応		
5回	運動と呼吸循環系②		運動に伴う酸素摂取量の変化		
6回	運動処方①		呼吸循環、エネルギー代謝からの運動処方		
7回	運動と筋力①		筋力発揮に影響を与える要因		
8回	運動と筋力②		運動単位、反射、脳の運動調節		
9回	運動と内分泌①		運動刺激と内分泌応答		
10回	運動と内分泌②		内分泌と糖代謝		
11回	運動処方②		筋力トレーニングの運動処方		
12回	運動と環境		高地、水中、暑熱・寒冷環境への応答		
13回	運動と発育発達、加齢老化		発育・発達、加齢・老化に伴う運動機能の変化		
14回	運動処方③		目的、対象に合わせた運動処方の立案、評価		
15回	運動生理学総論		これまでの講義を踏まえての総合考察		
成績評価		試験：85%、講義内小テスト15%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	試験、小テストともに記述式・選択式の併用で基本事項を踏まえたものを出題する。小テストは5回実施する。	
課題やレポートに関するフィードバック					
FBは全体に対して実施する					
	書名			著書名	出版社名
教科書	入門運動生理学第4版			勝田茂 編著	杏林書院
参考書					
オフィスアワー	授業前後の休憩時間				

理学療法学科				昼間部	
科 目	生理学実習		単位・時間数	1単位・30時間	
担当講師	渡辺 信博		学 年	1年生 後期	
実績経験	資格	生理学の研究者（専門家）としての経験と、教育機関における非常勤講師としての経験を活かし、ヒトに備わった生理機能について理解が深まるよう実習を行います。			

授業の位置づけ	生理学実習はグループ学習が基本となります。ヒトの生理機能の基本となる、血圧や心拍、心電図、皮膚感覚、筋電図について、安静時の状態や、どのような状況（刺激）によりどのような変動を示すのかを実際に自身の体で測定してもらい、さらにグループ内で比較することで個体差についても観察します。測定機器の操作を習得することや生理機能の変化を体験すること、さらに実施した内容をレポートとして文章と図でまとめることで、生理学で学んだ内容の理解をより深めることが本実習の目的です。				
到達目標	人体の生理機能についての理解を深める				
授業形態	対面授業				

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	実習の一般的解説	生理学実習における注意事項、授業の進め方の解説
2回	実習①～③の解説	実習内容の予習
3回	①血圧と心拍数-1	血圧と心拍を測定し、安静時および体位変換の影響を理解する
4回		
5回	②血圧と心拍数-2	血圧と心拍を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する
6回		
7回	③心電図	心電図を記録し、深呼吸や精神負荷の影響を理解する
8回		
9回	実習内容のまとめ 又は発表会	実習内容をまとめる、または、グループで実施した実習内容についてプレゼンテーションを実施する
10回	実習④、⑤の解説	実習内容の予習
11回	④皮膚感覚	各皮膚部位による感覚点の測定を実施し、皮膚部位による感覚点の分布の違いや、冷却が皮膚感覚に及ぼす影響を理解する
12回		
13回	⑤随意運動 と表面筋電図	筋電図を記録し、安静時や運動時の屈筋と伸筋の働きを理解する
14回		
15回	発表会	グループで実施した実習内容についてプレゼンテーションを実施する

成績評価	・各実習レポート 90% ・発表会や その他の提出物 10%	受講上のルール・留意点	毎実習ごとに各自レポートを作成し、次週の授業開始時に提出していただきます。また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	--------------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
FBは講義内で全体に実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学実習NAVI 第3版	大橋敦子	医歯薬出版
参考書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	運動学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	臼杵 寛、土手 延恭	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	臼杵：実務経験23年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 土手：実務経験20年 整形外科急性期・慢性期・外来リハ、通所リハ・訪問リハ・介護予防教室運営を経験。現在非常勤として整形外科クリニック・有料老人ホームでの臨床業務を行っている。その現場での実務経験を踏まえて講義・演習を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	運動学とは身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基礎をなす重要な科目である。本科目では、正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、①力学原理に基づく運動の記述と解釈、②上肢及び体幹の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係、を中心に学修する。		
到達目標	①力学原理に基づく運動を理解し、説明できる。 ②上肢および体幹の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を理解し、説明できる。		
授業形態	講義・演習		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	生体力学の基礎	身体各部の名称、骨の名称
2回	生体力学の基礎	身体運動の面と軸、運動法則、身体とてこ
3回	関節運動と筋活動の基礎	関節の種類と運動軸、筋収縮の種類
4回	上肢帯と肩関節の運動	上肢帯の構造と種類、運動
5回	上肢帯と肩関節の運動	上肢帯の筋と作用
6回	肩関節の運動	肩関節の構造と種類、運動
7回	肩関節の運動	肩関節の筋と作用
8回	肘関節と前腕の運動	関節の構造と種類、肘関節と前腕の運動
9回	肘関節と前腕の運動	肘関節・前腕の筋と作用
10回	手関節と手の運動	手関節および手の関節の構造と種類、手関節と手の運動
11回	手関節と手の運動	腱鞘、指の運動と指背腱膜、手関節の筋と作用
12回	手関節と手の運動	手の筋と作用、手のアーチ、手の把持動作、手の変形
13回	頸椎の運動	椎骨の構造、椎骨の運動、椎間円盤、頸椎の運動と筋の作用
14回	胸郭の運動	胸郭の構造、呼吸運動と筋の作用
15回	腰椎の運動	腰椎の構造、腰椎の運動と筋の作用

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	指定の教科書は必ず持参すること。 演習・グループワークには積極的に参加すること。 本科目の内容は国家試験でも多く取り扱われますので、集中して受講すること。
------	----------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に実施。

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 運動学 第2版	山崎敦 著	羊土社
オフィスアワー	臼杵：研修日（木曜日） メールでの連絡は随時（h-usuki@nichireha.ac.jp） 土手：研修日（水曜日） メールでの連絡は随時（n-dote@nichireha.ac.jp）		

理学療法学科 昼間部			
科 目	運動学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	臼杵 寛、土手 延恭	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	臼杵：実務経験23年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 土手：実務経験20年 整形外科急性期・慢性期・外来リハ、通所リハ・訪問リハ・介護予防教室運営を経験。現在非常勤として整形外科クリニック・有料老人ホームでの臨床業務を行っている。その現場での実務経験を踏まえて講義・演習を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	運動学とは身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療対象とする理学療法士にとって、その理論的基礎をなす重要な科目である。本科目では、正常な運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけるために、①下肢の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係、②姿勢、③正常歩行について学修する。	
到達目標	①下肢の筋骨格系の構造・機能と関節運動の関係を理解し説明できる。 ②姿勢制御のメカニズムと姿勢分析の基礎を理解し、説明できる。 ③正常歩行のメカニズムを理解し、説明できる。	
授業形態	講義・演習	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	股関節の運動	骨盤と股関節の構造と種類、靱帯と作用
2回	股関節の運動	股関節の運動と筋の作用
3回	股関節の運動	股関節の安定性、片脚立位時の股関節の力学的特性
4回	膝関節の運動	膝関節の構想と種類、靱帯と作用、半月の作用、膝蓋骨の作用
5回	膝関節の運動	膝関節運動と筋の作用
6回	足関節と足の運動	足関節および足の関節の構造と種類、足関節と足の運動
7回	足関節と足の運動	足関節の筋と作用
8回	足関節と足の運動	足のアーチと機能、足の変形
9回	姿勢	姿勢の種類、名称、姿勢の安定条件、身体重心、重心線
10回	姿勢	立位時の筋活動、姿勢制御、反射・反応、戦略
11回	歩行	歩行周期、従来の用語・新しい用語
12回	歩行	歩行のメカニズム、身体の動き
13回	歩行	歩行時の筋活動、ロッカーファンクション
14回	歩行	異常歩行、歩行分析、歩行まとめ
15回	まとめ	復習

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	指定の教科書は必ず持参すること。 演習・グループワークには積極的に参加すること。 本科目の内容は国家試験でも多く取り扱われますので、集中して受講すること。
------	----------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に実施。

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 運動学 第2版	山崎敦 著	羊土社
	観察による歩行分析	キルステン・ゲッツ・ノイマン	医学書院
オフィスアワー	臼杵：研修日（木曜日） メールでの連絡は随時（h-usuki@nichireha.ac.jp） 土手：研修日（水曜日） メールでの連絡は随時（n-dote@nichireha.ac.jp）		

科 目	人間発達学		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒木 光		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験 23年 理学療法士として、総合病院・整形外科クリニック・老健・訪問リハ・デイケア・放課後デイにて行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 国際ボイタ認定セラピスト、DynamicNeuroMuscular(DNS) Practitioner Movement Link認定セラピスト		
	理学療法士			
授業の位置づけ	この授業では人間の一生涯における発達を、身体的・精神的・社会的な視点からその特徴を説明し、自身や他人の思考や行動を通して理解を深める。幅広い世代で医療を実践するために、各年代での機能の特徴を理解し、行動を実践するためのプロフェッショナルな視点について解説する。乳児の運動・行動を学びながら、人間の観察力を高め、専門的な技術の基礎を作る。 授業方法は講義が50%、演習が50%である。			
到達目標	人間の発達の年代ごとの特徴を幅広い視点から捉え、説明することができる。 乳幼児期の反射・反応の意義を理解し、説明することができる。 運動発達の変化が著しい乳幼児期の運動発達を理解し、説明することができる。			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	発達の概念	発達期の区分、発育曲線、発達の原則、運動発達
2回	発達理論	発達理論（エリクソン、ピアジェ、フロイト、その他）
3回	胎児・新生児期	胎児・新生児の発達、評価：調べまともめ学習、グループ発表
4回	乳児期	発達、反射・反応、発達の評価：調べまともめ学習、グループ発表
5回	幼児期	発達、反射・反応、社会的な発達：調べまともめ学習、グループ発表
6回	学童期の発達	親から友人へ、学校生活への移行：調べまともめ学習、グループ発表
7回	運動発達	0～3か月までの運動発達について
8回	運動発達	4～6か月までの運動発達について
9回	運動発達	7～9か月までの運動発達について
10回	運動発達	10～18か月までの運動発達について
11回	青年期の発達	第二次性徴、脳の発達と行動：調べまともめ学習、グループ発表
12回	成人期の発達	生活の変化、ストレス、メタボリックsynd：調べまともめ学習、グループ発表
13回	老年期の発達	老化による機能低下、生きがい：調べまともめ学習、グループ発表
14回	感覚系のまとめ	感覚系・言語・生活動作
15回	運動系のまとめ	乳幼児期の運動発達のまとめ

成績評価	定期試験：筆記試験 7 0 % 発表 課題 3 0 %	受講上のルール 留意点	授業開始時に毎回振り返りの課題を出しますので、必ず復習して臨んでください。 演習（実技）では動きやすい服装（基本はジャージ、短パン、Tシャツ）の準備をすること。
------	--------------------------------	----------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
定期的にレポートや国家試験様の疑似問題で学習促進とフィードバックをおこなう。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	イラストでわかる人間発達学	上杉 雅之	医歯薬
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 h-kuroki@nichireha.ac.jp		

		理学療法学科	昼間部
科 目	リハビリテーション医学概論Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	草野 修輔	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	20年以上にわたり、リハビリテーション専門医として、臨床においてリハビリテーション医療を行ってきた。また専門学校及び大学において、作業療法学科の学生にリハビリテーション医学の講義も行ってきた。その経験を活かし、リハビリテーション医学全般についてわかりやすく講義する。	
	リハビリテーション専門医		
授業の位置づけ	リハビリテーション医学の歴史、定義、関連職種、障害評価、各種対象疾患のリハビリテーションなどについて紹介し、これからの4年間で学習するリハビリテーション医学について、全般的理解を深めてもらう。		
到達目標	①リハビリテーションの歴史や定義、関連職種、関連法規・社会福祉制度についての説明できる。②リハビリテーションに必要な障害理解、評価法、治療法などについて説明できる。③リハビリテーションが関与する代表的な各種疾患について、病態・リハビリテーションなどについて説明できる。		
授業形態	講義		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーション医学の歴史と定義、障害分類、リハ関連用語	リハビリテーション医学の歴史的背景や定義、障害分類、リハビリテーション関連用語等について紹介する
2回	リハビリテーションスタッフおよび関連職種、リハビリテーション関係法規および社会福祉制度	リハビリテーションスタッフ・関連職種、リハビリテーション関係法規・社会福祉制度について紹介する
3回	障害学（その1：運動障害・感覚障害）	リハビリテーションにおける障害評価として、運動障害・感覚障害について解説する
4回	障害学（その2：高次脳機能障害 他）	リハビリテーションにおける障害評価として、各種高次脳機能障害他について解説する
5回	各種障害の評価法・検査法、物理療法	リハビリテーションにおける各種障害評価法、関連する検査法、物理療法等について解説する
6回	補助具・義肢・自助具	リハビリテーションにおける各種補装具・義肢・自助具などについて紹介する
7回	脳血管障害のリハビリテーション	脳血管障害の病態と障害、実際のリハビリテーションについて解説する
8回	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷の病態と障害、実際のリハビリテーションについて解説する
9回	整形外科疾患のリハビリテーション	骨関節疾患、切断のリハビリテーションについて解説する
10回	小児疾患のリハビリテーション	リハビリテーションの対象となる代表的な小児疾患とそのリハビリテーションについて解説する
11回	がんのリハビリテーション	がんのリハビリテーションについて解説する
12回	内部障害のリハビリテーション	呼吸器疾患、心臓疾患等の内部障害とリハビリテーションについて解説する
13回	認知症のリハビリテーション	認知症の定義、種類、評価法、リハビリテーションについて解説する
14回	廃用症候群他のリハビリテーション	廃用症候群、ロコモ、サルコペニア等の病態とリハビリテーションについて解説する
15回	総まとめ	第1回から第14回までの講義の総まとめ

成績評価	定期試験50%＋レポート課題50%	受講上のルール・留意点	毎回、講義資料を配布するので、しっかりと復習すること
------	-------------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業内容に則したミニテストを出題するので、しっかりと復習すること

	書名	著書名	出版社名
教科書	特に指定なし		
オフィスアワー	毎週火曜日および金曜日16：30～17：30		

理学療法 学科		昼 間 部	
科 目	理学療法概論	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	高林 礼子	学 年	1年生 前期
実績経験	資格 理学療法士	実務経験27年 (総合病院・老人福祉施設・障害者施設・訪問等) の経験を踏まえて講義を行う。	経験年数 27年

授業の 位置づけ	この授業では理学療法業務、理学療法士の役割を理解し、説明できるようになることを目的とする。医療・福祉分野における理学療法業務を実施するために、様々な業務の特徴を理解すること、プロフェッショナルの視点を持つための基礎を築くことが求められる。		
到達目標	理学療法業務、理学療法士の役割について理解し、説明することができる。 理学療法士の倫理観、行動規範について理解し、説明することができる。		
授業形態	講義・演習・実習	併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	理学療法の概念と歴史について学ぶ
2回	総論	理学療法士の法律について学ぶ
3回	総論	理学療法士の関連法規
4回	総論	理学療法の意義と役割
5回	総論	理学療法の対象
6回	総論	理学療法の方法
7回	総論	理学療法士の組織
8回	総論	理学療法士教育
9回	各論	医療・保健分野の理学療法
10回	各論	地域リハビリテーションと理学療法
11回	各論	医療事故とリスクマネジメント
12回	各論	個人情報の管理と対象者の権利
13回	各論	理学療法士を目指す学生に求められるもの
14回	各論	臨床教育の実践
15回	各論	理学療法士と研究

成績評価	定期試験：筆記試験100％	受講上のルール・留意点	理学療法士とは何か、理学療法とは何かの理解を深めること
------	---------------	-------------	-----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック			
個別及び全体にフィードバックする。			
	書名	著書名	出版社名
教科書	理学療法学テキストⅠ 理学療法概論第4版	監修 千住秀明	神陵文庫
参考書	P T入門イラストでわかる理学療法概論	監修 上杉雅之	医歯薬出版株式会
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 r-takabayashi@nichireha. ac. jp		

理学療法学科

昼間部

科 目	P B L セ ミ ナ ー I		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本奈々子、高林 礼子、他 P T 教員		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	・塚本奈々子：実務経験 2 0 年 理学療法士として、大学病院、地域の回復期、療養型病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 ・高林 礼子：実務経験 2 7 年 急性期病院、特養、通所、訪問の他、教育機関にも常勤として勤務。実務経験を活かして講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	この授業では、自己学習だけでなく、学生同士でのグループワークを通して共同で問題に対し乗り越え、共通の目標に向かって一緒に活動することを学習する。医療者としての心身を鍛え、グループに対する責任感と奉仕の精神を身に着ける。これにより将来、医療の専門職として社会に貢献するのに必要な専門職連携の基盤を育成する。 グループでの実技や他学年との交流も経験することで、チームとして明確な目標をもちチーム内でのコミュニケーションを大切にして、チームワークの重要性を学習する。		
到達目標	・グループ内で円滑にコミュニケーションを取り、明確な目標を定めることができる。 ・グループにおける自分の役割を自覚し、主体的に行動できる。 ・自ら疑問をもち、解決に向けてグループメンバー同士協力して活動できる。		
授業形態	演習		対面授業

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	P B L に関する基礎知識の学習
2回	リスク管理	実習における一般的なリスク管理について学習
3回	課題：バイタルサイン	課題について個人学習後、グループで共有
4回		〃
5回	1 年実技 総復習	1 年で学習した実技を復習し、実技試験を行う
6回		〃
7回	課題：検査値と画像	課題について個人学習後、グループで共有
8回		〃
9回	発表①、実技指導	他学年との交流。他学年に課題を発表、実技を実施する
10回		〃
11回	症例検討	模擬カルテで不明な用語を確認後、必要なPT評価やプログラムを検討する
12回		〃
13回	発表準備	検討内容を発表できるよう準備
14回	発表②	まとめた内容を発表
15回	シナリオ解説 ふりかえり	症例について解説、演習についてよかった点や今後の課題を整理する

成績評価	授業内発表：20% 課題提出：80%	受講上のルール・留意点	演習中は活発な討論が望まれるが、私語は慎み演習に集中する。 グループにおける自分の役割を自覚し、主体的に行動できることを期待する。
------	-----------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック			
フィードバックは全体に行う。			

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業中・前後にしてください。		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	理学療法セミナーⅠ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	佐藤和世 高橋豊 保坂裕子	学 年	1年生 通年
実績経験	資 格	・佐藤 和世 実務経験22年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床、クリニックに勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。 ・高橋 豊 実務経験12年 介護老人保健施設・訪問リハビリテーション・デイケア・デイサービスにて勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 ・保坂 裕子 実務経験21年 理学療法士として、急性期病院、回復期リハに常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	専門領域の勉強の導入として勉強方法を学んだ上で、解剖・運動・生理を含めた基礎科目についてグループワークを中心に復習を深めて理解を深める。 1．各種勉強方法について説明できる。 2．効率的なグループワークの実施方法について説明できる。 3．各授業でならった内容について概要を説明できる。		
到達目標	勉強方法、グループワークの実施方法について理解できる 各授業の内容についてより深く理解できる		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の目的と実施内容について
2回		臨床理学療法に必要な知識
3回		臨床理学療法に必要な知識 グループワーク
4回	学習法	学習とは
5回		記憶
6回		メモとノート レポート
7回		KJ法 ブレインストーミング
8回		PDCAサイクル
9回	内部環境	ホメオスタシス
10回	細胞の機能と構造	構造
11回		機能
12回	血液の成分と働き	赤血球 白血球 血小板
13回		赤血球 白血球 血小板
14回	心臓の機能と構造	構造
15回		血液循環
16回		刺激伝導系
17回	呼吸	外呼吸と内呼吸
18回		肺機能
19回		ガス交換
20回	消化吸収	消化器系の機能と構造
21回		消化
22回		吸収
23回	関節とてこ	各てこについて
24回	骨と関節の運動	関節内の運動
25回		骨の運動の基本形
26回	上肢帯の関節	肩甲帯
27回		肩～手関節
28回	下肢帯の関節	股関節
29回		膝関節・股関節
30回	体幹	脊柱

成績評価	試験：80% 提出物等：20%	受講上のルール・留意点	後期はグループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけないことを常に心がけること
------	--------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	解剖学、運動学、生理学の授業で使用している教科書		
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 （佐藤） k-sato@nichireha. ac. jp （高橋） y-takahashi@nichireha. ac. jp （保坂） y-hosaka@nichireha. ac. jp		

		理学療法学科	昼間部
科 目	検査測定法Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	木下 修 塩澤 和人	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	木下:義肢装具士として42年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として32年、総合病院(急性期・回復期)・クリニック・老健施設・特養・訪問・ デイサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。 塩澤 和人: 実務経験 17年 理学療法士として、回復期病院、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士 義肢装具士		

授業の位置づけ	検査測定・評価の意義と方法を理解することを目的とし、対象者に対して適切な評価を行えるよう学習する。		
到達目標	評価・血圧測定・バイタル測定・肢長周径・呼吸機能検査・循環機能検査ができる。		
授業形態	講義・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	評価総論	リハビリテーション概念と評価
2回		ICIDHとICF
3回		一般的評価事項と情報収集
4回		現病歴 観察 検査 画像検査 臨床的検査の目的と意義
5回	バイタルサイン	意識・脈拍・心拍
6回		呼吸・血圧
7回		バイタル測定実技
8回		バイタル測定実技
9回	形態測定 感覚検査	肢長周径 上肢・下肢
10回		肢長周径 上肢・下肢
11回		形態測定 まとめ
12回		感覚・知覚検査
13回		感覚・知覚検査実技
14回		反射検査
15回		反射検査実技

成績評価	筆記試験90% 小テスト10%	受講上のルール・留意点	実技が行いやすい服装での参加
------	--------------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
全体へのフィードバックを実施するとともに、必要に応じ個別にも行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	理学療法評価学 第6版補訂版	松澤正/江口勝彦	金原出版
オフィスアワー	塩澤:授業前後及びメール(k-shiozawa@nichireha.ac.jp) 木下:授業前後及びメール(o-kinoshita@nichireha.ac.jp)		

		理学療法学科	昼間部
科 目	検査測定法Ⅱ【MMT・ROM】	単位・時間数	2単位・45時間
担当講師	高橋 豊 木下 修 保坂 裕子	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	高橋：実務経験12年 介護老人保健施設・訪問リハビリテーション・デイケア・デイサービスにて勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 木下：義肢装具士として43年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として33年、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・デイサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。 保坂：実務経験27年 理学療法士として、急性期病院、回復期リハに常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	理学療法評価の中でも行う頻度の高い関節可動域測定、徒手筋力検査法について学ぶ。		
到達目標	関節可動域測定の意義・目的・方法を理解し、実技・記録ができる。 徒手筋力検査法の意義・目的・方法を理解し、実技・記録ができる。		
授業形態	講義・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	関節可動域測定概要	関節可動域検査の定義・意義・目的
2回	上肢関節可動域検査	肩甲帯・肩関節
3回		肘関節・前腕
4回		手関節
5回	復習	上肢の関節可動域検査復習
6回	下肢関節可動域検査	股関節
7回		膝関節
8回		足関節・足部
9回	復習	下肢の関節可動域検査復習
10回	体幹関節可動域検査	頸部・胸腰部
11回	その他の関節可動域検査	顎関節・指関節など
12回	関節の変形	関節の変形について
13回	徒手筋力検査概要	徒手筋力検査法の定義意義・目的
14回	上肢筋力検査	肩甲帯・肩関節
15回		肩関節
16回		肘関節
17回		手関節・手指
18回	下肢筋力検査	股関節
19回		股関節
20回		膝関節
21回		膝関節
22回		足関節・足趾
23回	総復習	検査実技

成績評価	筆記60％ 実技30％ 小テスト10％	受講上のルール・留意点	実技が行いやすい服装での参加
------	---------------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
全体へのフィードバックを実施するとともに、必要に応じ個別にも行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	理学療法評価学 第6版補訂版	松澤正/江口勝彦	金原出版
	新・徒手筋力検査法 原著第10版	Dale Avers他著、津山直一他訳	協同医書
オフィスアワー	高橋:授業前後及びメール(y-takahashi@nichireha.ac.jp) 木下:授業前後及びメール(o-kinoshita@nichireha.ac.jp) 保坂:授業前後及びメール(y-hosaka@nichireha.ac.jp)		

理学療法学科					昼 間 部	
科 目	運動療法学 I			単位・時間数	1単位・30時間	
担当講師	吉葉則和			学 年	1年生 後期	
実績経験	資格	吉葉：実務経験23年理学療法士として総合病院、クリニック、維持期を経験、教育機関にて学生教育にかかわる。				
	理学療法士					
授業の位置づけ	運動療法は理学療法の根幹となる部分である。技術の派生は多岐にわたる。その根本をなす運動療法の目的を理解するためには、他科目で学習した解剖・生理・運動学などを統合していく必要が再確認のある身体機能を理解したうえでの運動療法の処方をイメージできるように進めていく					
到達目標	各種運動療法の目的や効果の学習と運動療法の実践					
授業形態	講義・演習			対面授業		
授業計画						
回数	項目	講義内容				
1回	運動療法とは	歴史など				
2回	運動療法の概要	運動による身体の変化				
3回	運動療法の基礎知識	リスク管理				
4回		運動療法の目的				
5回		関節について				
6回		骨、筋について1				
7回		骨、筋について2				
8回		運動療法の一般原則				
9回	運動療法の基礎1	各疾患の病態と特徴				
10回		各疾患の病態と特徴				
11回		各疾患の病態と特徴				
12回	運動療法の基礎2	関節可動域訓練				
13回		ストレッチ				
14回	運動療法の基礎3	筋力トレーニング				
15回		演習				
成績評価	筆記試験80%、演習や課題20% 欠格要件（授業時間1/3以上の欠席者には単位が与えられない）	受講上のルール・留意点	・他者に対する礼儀と配慮、必要であれば補講又は実技練習を設ける ・基本資料は印刷して配布します			
課題やレポートに関するフィードバック						
講義時間内もしくは講義後に対応						
	書名	著書名	出版社名			
教科書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋則明	文光堂			
参考書						
オフィスアワー	担当授業の前後					

		理学療法学科	昼間部
科 目	運動療法学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	村井敦士 内山結城	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	村井：実務経験33年。1992年より中枢疾患を中心とした病院で勤務。 2005年に鍼師・灸師・あんまマッサージ指圧師を取得。その後教育機関で専任教員として勤務。	
	理学療法士	内山：実務経験17年。IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト。病院施設スポーツ整形クリニック等での経験後、現在はスポーツトレーナーとしても選手のケアや技術向上に携わっている。	

授業の位置づけ	運動療法は理学療法の主たる武器である。その武器を用いるためには解剖・生理・運動学などを統合し、リスク禁忌を学んでいく必要がある。実技に実際行うことで、相手に対する行動として、理学療法士のたしなみや配慮の必要性を学習する。この授業を通して患者に対してアプローチするための技術を身につける。本授業は「講義」、「実技」、「グループ発表」で構成される。		
到達目標	各病態を理解し基本的な運動療法を学習する。 ①運動療法の意義・目的を説明できる。 ②必要に応じた運動療法を選択することができる ③各病態を理解し基本的な運動療法を実施することができる。		
授業形態	講義・実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動療法の総論	講義：運動療法とは、種類と効果
2回	コンディショニング	講義：コンディショニングとデコンディショニング
3回	コンディショニング	実技：呼吸誘導、ストレッチの種類
4回	関節可動域	講義：副運動と関節遊びおよび法則
5回	関節可動域	実技：副運動および関節遊びの促通
6回	筋力増強	講義：筋収縮の種類、1RM, 10RM、好気呼吸、嫌気呼吸、AT、運動強度
7回	筋力増強	実技：RMの測定、筋力増強と強化
8回	持久力	講義：筋持久力、全身持久力にてついて
9回	感覚	講義：感覚の区分と運動との関係
10回	感覚	実技：特殊感覚と固有受容器の促通
11回	協調性障害	講義：錐体外路系について
12回	協調性障害	実技：モビリティーとスタビリティーの促通
13回	バランス	講義：姿勢制御導入
14回	バランス	実技：安定性限界への介入
15回	まとめ	講義、実技の復習と補足

成績評価	筆記試験50% 小テスト40% グループワーク10% 欠格要件（授業時間1/3以上の結石者には単位を与えない）	受講上のルール・留意点	服装 ：上下ジャージ（短パン、Tシャツも可）、もしくは上下白衣でマスク着用、アクセサリ等貴金属を外す、髭は剃り、長い髪は束ねる スマートフォン ：授業中は禁止（鞆に入れておく） 授業前準備 ：PC、プロジェクターにPC画面が映し出され、マイクはスピーカーから音が出る状態にしておく（授業前に内山にプリント等確認にくること） 授業に向かう姿勢 ：授業開始の号令から出席確認の間は私語厳禁（終礼時も同様）授業を妨げるような不真面目反抗的な態度は慎むこと
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
メールでの添付にて提出、添削によるフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋則明	文光堂
参考書			
オフィスアワー	担当授業の前後		

理学療法 学科 昼 間 部			
科 目	日常生活活動学Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	鍋城 武志	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	実務経験22年 急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では、日常生活動作（以下ADL）の知識と技術の基礎を学習する。この教科の基本概念となる生活の質（QOL）について理解し、関連した知識を学び、寝返りや歩行・炊事や買い物のような日常生活を医療的視点から見つめ直す。日常生活を論理的・現実的に分類するために国際生活機能分類（ICF）を学ぶ。日常生活の変化を評価し理学療法に反映させるためのツールとしてバーセルインデックス（BI）・機能的自立度評価表（FIM）を学ぶ。見学実習や臨床実習で患者様と接する際の基本的技術として介護法を学ぶ。 授業方法はプリント・パワーポイントを主とした講義形式で、ICF・BI・FIMの講義後には分類や採点に関し実際の状況を想定して2人以上のグループでディスカッションを行う。車椅子駆動と杖歩行に関して患者様の状態を体験するための演習を行う。実技では基本的に2人1組で杖歩行の行い方や介護法を学ぶ。		
到達目標	○リハビリテーションにおけるADLの関わりを理解している ○ICFの分類とBI・FIMの採点を行える ○車椅子駆動・杖歩行や介護に関して相手に説明しながら行える		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ADLと概念	ADLの位置づけ、概念、分類
2回		QOLと構造
3回	障がいの定義と分類	障がいの定義、ICIDH・ICFについて
4回		ICFの分類法（グループワーク）
5回	ADL評価	ADL評価の目的、役割
6回		Barthel Indexの特徴・配点
7回		FIMの特徴・判定基準
8回		Barthel IndexとFIMの評価法（グループワーク）
9回		その他の評価法、評価の実際
10回	歩行補助具	歩行補助具の分類と使用方法、杖歩行の指導
11回	車椅子	車椅子の分類と使用方法、車椅子駆動の指導
12回	体験演習	杖歩行と車椅子駆動の体験演習
13回	介助法	基本動作の介助法（床上動作）
14回		基本動作の介助法（車椅子移乗）
15回		基本動作の介助法（歩行、階段昇降）

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中する。 実技では動きやすい服装を準備する。また空いた時間は繰り返し復習する。
------	----------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版	鶴見隆正、隆島研吾編集	医学書院
参考書	新 イラストによる 安全な動作介助のてびき 第3版	飛松好子 編著	医歯薬出版株式会社
オフィスアワー	担当授業の前後		

科目	臨床見学実習 I	単位・時間数	1単位・ 45時間
担当講師	理学療法学科教員	学 年	1年生 通年
実績経験	資格	総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・デイサービス・保健所・教育機関などに従事しています。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	病院や診療所、介護施設で見学実習を実施する。医療機関・介護施設における理学療法士の役割や仕事の内容、関連職種との連携、チーム医療への理解を学習する。基礎知識の確認や実技演習などを中心に行う。 ・臨床現場の理学療法士の役割、具体的な仕事内容を説明できる。 ・医療・介護・福祉現場で働く専門職としての心構えを理解し説明できる。 ・見学実習をとして、今後の基礎学習に取り組むべきかを明確にし説明できる。		
到達目標	理学療法士の仕事内容について理解し説明できる。 リハビリテーションの考え方がどのように医療現場や介護福祉施設で実践されているのか理解できる。		
授業形態	実習		

授業計画

		実習内容
	1) 病院・施設の理学療法士から、各施設での理学療法士の役割を学ぶ。 2) 医療者として理学療法士の持つ責任と心構えについて学ぶ。 3) 理学療法士が患者・利用者に対し、どのような接し方をしているか学ぶ。 4) 患者・利用者とのコミュニケーションを通して、理学療法士に求められるものを学ぶ。 5) 多職種との連携について学ぶ。 6) 医療における礼節・態度・接遇について学ぶ。	

成績評価	臨床実習指導者の評価 および担当教員の評価、 提出物・レポート	受講上のルール・留意点	実習施設での遅刻・早退・欠席は認めない。 実習指導者に対し、報告・連絡・相談は必ず行う。 感染対策に対して、施設の規則に準じて行動する。
------	---------------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
実習終了後に、教員よりフォローアップを実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	実習担当教員・担任と連絡を取る		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	心理学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	鈴木 康弘	学 年	2年生
実績経験	資格	医療・教育・福祉・産業領域等での心理臨床の実務経験、総合病院におけるコンサルテーション・リエゾン活動や学校メンタルヘルスの臨床実績に基づく講義をおこなう。また、他大学や専門学校での非常勤講師の経験、公認心理師・臨床心理士養成に指定された大学院からの学生に対する実習指導経験を講義に活かす。	
	公認心理師・臨床心理士		

授業の位置づけ	心理学を専門としない、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、教養としての心理学を学ぶ。		
到達目標	心理学の理論が日常や臨床実践において役立つことを理解できる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	教育心理学①	人はなぜ学習につまづくのか。 Keyword:学習観、学習方略
2回	教育心理学②	心理学から勉強方法を考える。 Keyword：教訓帰納、仮想的教示
3回	言語心理学①	獲得・習得・学習の違い。 Keyword:母語、言語学習
4回	言語心理学②	言語習得の環境を考える。 Keyword:偶発的学習, 全身反応学習法
5回	認知心理学①	人の考えの歪みを理解する。 Keyword:認知バイアス, 原因帰属
6回	認知心理学②	人の直感のはたらき方について。 Keyword: ヒューリスティクス, 批判的思考
7回	脳の心理学①	脳を知る。 Keyword:シナプス、グリア
8回	脳の心理学②	脳を育てるとは。 Keyword:生活習慣病、脳の可塑性
9回	感情心理学①	感情とは何か。 Keyword:情動、気分
10回	感情心理学②	気分や情動との付き合い方。 Keyword:ポジティブマネジメント
11回	キャリア心理学①	キャリアとは何か。 Keyword:心理社会的モラトリアム
12回	キャリア心理学②	青年期とアイデンティティ。 Keyword:自律性、授業外学習
13回	集団の心理学①	集団の基本的特徴を知る。 Keyword:同調行動、集団規範
14回	集団の心理学②	良い結果を生むための集団活動。 Keyword:集団の意志決定, 集団目標
15回	スポーツ心理学	競技や健康スポーツと心の関係。 Keyword:心理的スキル, 行動変容

成績評価	毎回の小テスト 30点 レポート 20点 定期試験 40点 受講態度（発言等）10点	受講上のルール・留意点	予習(教科書を読む)の上で指定期間内の配信授業を聴講し、必ず小テストに回答すること。規定の出席数に満たない場合、定期試験の受験資格が得られない。指定のテーマについてA4に3枚程度のレポートを提出すること。定期試験は教科書や授業で取り上げた内容を出題する。尚、配布資料や授業動画の無断転用やSNS掲載・複製・スクリーンショット等の行為を禁止とし、問題行為があった場合は単位を取得できない。
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	絶対役立つ 教養の心理学 展開編 人生をさらに有意義に過ごすために	藤田哲也編著	ミネルヴァ書房
参考書			
オフィスアワー	事務局に問い合わせてください。		

科 目	運動生理学		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	高林 礼子		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	高林：実務経験27年間（病院、、特養、通所、訪問等）の経験を踏まえて講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	運動生理学は主に運動に対する生理反応を理解する学問である。 健常者の運動に対する生理反応を中心に学習し、理解することで今後のリスク管理等につなげる目的で学習する。 ・健常者の体内で起こる反応などについて理解できる		
到達目標	生理学的理解からリスク管理へとつなげる思考を説明できる 運動による呼吸・循環・代謝などの変化について説明できる		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	筋収縮とエネルギー供給系	骨格筋の構造、A T P 供給経路
2回	筋線維の種類とその特徴	収縮様式、筋張力と長さ
3回	筋収縮での神経の役割	運動性皮質と錐体路、運動単位など
4回	換気の運動生理学	呼吸中枢と呼吸調節、換気メカニクス
5回	ガス交換の運動生理学	ガス交換、運動時の呼吸循環応答
6回	循環の仕組みと働き	循環系の構造、心周期
7回	循環器系と運動	重力に対する循環反応、起立性低血圧
8回	関節の運動生理学	関節の運動生理
9回	体温の運動生理学	体温と体熱のバランス 体温調整
10回	内分泌と運動	運動時のホルモン調節
11回	身体組成と肥満	身体組成モデルとその異常
12回	代謝疾患と運動	生活習慣病とは、運動の効果
13回	トレーニングの効果	体力とは、トレーニングの3大要素
14回	骨粗鬆症と運動	骨粗鬆症の背景、運動の効果
15回	加齢と運動	サルコペニア フレイルなど

成績評価	グループワーク10% 小テスト10% 筆記試験80%	受講上のルール・留意点	理解が必要な教科のため、しっかり授業に取り組むこと。
------	----------------------------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業の疑問点について、確認シートを作成する。それに対するフィードバック（FB）を毎回おこなう。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学、運動学の教科書		
参考書	リハビリテーション運動生理学	監修 玉木 彰、勝田茂編著	MEDICALVIEW
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 r-takabayashi@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	運動学実習	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	吉葉則和	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	吉葉：実務経験23年理学療法士として総合病院、クリニック、維持期を経験、教育機関にて学生教育にかかわる。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	前年度学んだ運動学について なかでも基本的動作能力について分析できる力を養う。 ICFの分類に基づき動作を考察できる思考力を養う。		
到達目標	講義のもと学生間の模擬実習を通じて患者の動作を理解していく		
授業形態	講義及び実技	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	臨床動作分析総論	臨床における動作分析とは 動作に影響を及ぼす因子
2回		
3回	運動学習	運動制御理論と運動学習理論
4回	姿勢制御のバイオメカニズム	基礎バイオメカニズムについて
5回	正常動作	起き上がり動作：グループ学習
6回		
7回		立ち上がり動作：グループ学習
8回		
9回		歩行：グループ学習
10回		
11回	演習：寝返りからの起き上がり	姿勢観察・分析・推論
12回		
13回		
14回		
15回	演習：起立・着座	動作観察・分析・推論
16回		
17回		
18回		
19回	演習：歩行	動作観察・分析・推論
20回		
21回		
22回		
23回	臨床動作分析	治療につなげる動作分析について

成績評価	筆記、orレポート他、講義による演習課題から総合的に判断いたします。	受講上のルール・留意点	・基本講義資料をお渡しします。ルーズリーフなど板書できる用紙は各自準備してください。 ・動きやすい服装で受講すること ・授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	------------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
授業中の課題に対しては、随時質問を受け付ける。

	書名	著書名	出版社名
教科書	講義資料は基本配布いたします。ほか授業で用いている動作分析の参考書を持参ください		
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	生涯発達概論		単位・時間数	1単位・8時間
担当講師	黒木 光		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	実務経験 23年 理学療法士として、総合病院・整形外科クリニック・老健・訪問リハ・デイケア・放課後デイにて行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 国際ボイタ認定セラピスト、DynamicNeuroMuscular(D N S) Practitioner Movement Link認定セラピスト		
	理学療法士			
授業の位置づけ	1 年次に学んだ人間発達学をベースに、この授業では運動発達をより深く理解し、観察力をつけるために講義と実技演習で説明・実技指導する。 理学療法分野では運動を観察すること（視覚での把握と解釈の両方）は仕事上の基本となる。この授業では運動発達を深く理解し、観察力を向上させることで、小児以外の方分野でも応用できるようにする。 講義 3 0 %、演習 7 0 %			
到達目標	各専門領域の知識を学び、その内容を説明できるようになる。 各分野に関心を持ち、調べて、思考できるようになる。 自身らの体験や臨床の実例を通して、幅広い情報収集力と人間観察力を身につけることができる。			
授業形態	講義・演習		併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	乳児の運動発達	背臥位：新生児から3か月 運動発達と筋活動（演習）
2回	乳児の運動発達	腹臥位：新生児から3か月 運動発達と筋活動（演習）
3回	乳児の運動発達	背臥位：4か月から6か月 運動発達と筋活動（演習）
4回	乳児の運動発達	腹臥位：4か月から6か月 運動発達と筋活動（演習）
5回	乳児の運動発達	背臥位：7か月から9か月 運動発達と筋活動（演習）
6回	乳児の運動発達	腹臥位：7か月から9か月 運動発達と筋活動（演習）
7回	乳児の運動発達	10か月から歩行ができるまで
8回	乳幼児の発達	乳幼児の発達（運動・言語・認知）

成績評価	授業課題100% 授業時間数の3分の1以上 欠席した者は試験は受験させず、単位を与えない	受講上のルール・留意点	動きやすい服装（半袖、短パン）、観察しやすい服装を用意ください。筋と骨格の図を描くため、運動学の参考者を持参ください。 お互いの身体を利用しながら学習をおこないますので、互いに敬意をもって演習をおこないきましょう。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業で学んだこと、調べたいこと、疑問点などについて、授業振り返りシートを使って記入いただきます。内容はフィードバックしますので、必ず提出をしてください。

	書名	著書名	出版社名
教科書	指定なし		
参考書	イラストでわかる人間発達学	上杉 雅之	医歯薬
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 h-kuroki@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	病理学概論	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	プルカット・アルミラ	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	大学病院などで行ってきた病理検査経験を生かし、実例と国家試験問題の解説などを交えながら講義を行う。	
	医師・医学博士		

授業の位置づけ	病理学は基礎医学の総まとめおよび臨床医学への橋渡し役となっている。解剖や生理学で学んだ人体の正常構造と機能にどんな異常が生じて患者が苦しんでいるのか、要するに「疾病の成り立ち」を理解する基礎である。すべての医療従事者に共通して患者の病態を正確に把握するために病気の原因、発生メカニズム、経過と転帰を深く理解することが求められるので、病理学の学習が必須とされる。講義では病因となる内因と外因を踏まえ、全身の各臓器で共通する、退行・進行性病変、循環障害、炎症・感染症、免疫疾患、腫瘍、先天異常などの概念や主要疾患、そして、各臓器の各疾患の特徴について説明する。授業はプレゼンテーション形式で行われる。		
到達目標	1) 進行・退行性病変，代謝障害、循環障害，炎症，腫瘍，奇形などの疾群を総論的に説明できる。 2) 疾患に関わる病理学的用語を理解し、正しく使える。 3) 他の講座で学ぶ疾患と本講座の知識との関連性を見出し説明できる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1 回	病理学の概要 病因論	病理学の概念ついて理解する、疾病の外因・内因を理解する
2 回	退行・進行性病変	変生、萎縮、壊死、アポトーシスについて学ぶ 肥大、過形成、化生、異型性及び再生について学ぶ
3 回	代謝異常	生命を維持するための代謝及び代謝異常により引き起こされる病態について学ぶ
4 回	循環障害①	血液循環の基礎、局所循環障害について理解する
5 回	循環障害② 炎症	全身循環の病因・病態について理解する。炎症の経過と生体の反応を理解する
6 回	感染症 腫瘍①	感染症の成り立ち及び感染症を引き起こす主な病原体ついて理解する 腫瘍の特徴、命名と分類、形態、悪性腫瘍の進展形式を学ぶ
7 回	腫瘍②	進行度、発生原因と発がんメカニズムを学ぶ
8 回	先天異常、奇形	遺伝性疾患、染色体異常と奇形の基礎を学ぶ
9 回	循環器	心, 血管の疾患を学ぶ
10回	呼吸器	上気道、肺、胸膜に見られる疾患、腫瘍を学ぶ
11回	消化器	消化器の疾患を学ぶ
12回	神経系	脳血管障害、中枢神経系の感染症, 脱髄疾患、主要な神経変性疾患、脳腫瘍の病理学変化を学ぶ
13回	運動器	骨、軟骨、関節・筋肉の疾患について学ぶ
14回	泌尿器・生殖器	泌尿器・生殖器に見られるの疾患について学ぶ
15回	内分泌臓器	内分泌臓器に見られるの疾患について学ぶ

成績評価	定期試験100% (授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない)	受講上のルール・留意点	・定期試験は筆記試験を行う ・不合格者対象に再試験を行う ・定期試験範囲を授業中に重要とされる内容や配布される演習問題等とする
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(第5版) (ISBN 978-4-260-04986-3)	奈良 勲	(医学書院)
参考書			
オフィスアワー	質問があればメールでお願いします almiranasirden@gmail.com p-almira@stu.nichireha.ac.jp		

理学療法 学科				昼 間 部	
科 目	臨床心理学		単位・時間数	2単位・30時間	
担当講師	鈴木康弘		学 年	2年生	
実績経験	資格	医療・教育・福祉・産業領域等での心理臨床の実務経験、総合病院におけるコンサルテーション・リエゾン活動や学校メンタルヘルスの臨床実績に基づく講義をおこなう。また、他大学や専門学校での非常勤講師の経験、公認心理師・臨床心理士養成に指定された大学院からの学生に対する実習指導経験を講義に活かす。			
	公認心理師・臨床心理士				
授業の位置づけ	心理学を専門としない、心理職を目指していない学生を対象に、教養としての臨床心理学を学ぶ。				
到達目標	臨床心理学の理論が日常や臨床実践において役立つことを理解できる。				
授業形態	講義		遠隔授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	パーソナリティの理解	個人差に注目する。 Keyword:ビッグファイブ, 心理的障害, 感受性差異
2回	うつ病と抑うつ障害	ストレスとの関連を学ぶ。 Keyword:双極性障害, HPA軸, 内在化問題
3回	不安症	怖れる気持ちについて。 Keyword:恐怖条件づけ、扁桃体、暴露療法
4回	統合失調症	普遍的な心の病。 Keyword:幻覚/妄想, 自我障害, アドヒアランス
5回	心的外傷後ストレス障害	トラウマを理解する。 Keyword:再体験/回避/過覚醒、PFA
6回	発達障害	ASDの概要をつかむ。 Keyword:二次障害、心の理論、認知的特性
7回	臨床心理学の理論と方法の歴史	臨床心理学の誕生と各理論の概要をつかむ。
8回	精神分析	フロイトを学ぶ。 Keyword:心的装置, 発達論, 転移/逆転移, 夢分析
9回	認知行動療法	CBTの概要をつかむ。 Keyword:ABC分析、認知再構成法
10回	人間性心理学	ロジャースを学ぶ. Keyword:自己一致, 無条件の肯定的関心, 共感的理解
11回	ナラティブ・アプローチ	物語的な見方や考え方を理解する。 Keyword:ライフストーリー
12回	神経科学と生理心理学	心の生理学的基礎を学ぶ。 Keyword:大脳皮質、身体の生理学
13回	心理アセスメント	心理的見立ての概要を理解する。 Keyword:ラポール、心理検査
14回	臨床心理学のための統計学	心理検査マニュアルを読むために。 Keyword:標準偏差、信頼区間
15回	心理臨床実践	心理臨床学の実践について症例から学ぶ。

成績評価	毎回の小テスト 30点 レポート 20点 定期試験 40点 受講態度（発言等）10点	受講上のルール・留意点	予習(教科書を読む)の上で指定期間内の配信授業を聴講し、必ず小テストに回答すること。規定の出席数に満たない場合、定期試験の受験資格が得られない。指定のテーマについてA4に3枚程度のレポートを提出すること。定期試験は教科書や授業で取り上げた内容を出題する。尚、配布資料や授業動画の無断転用やSNS掲載・複製・スクリーンショット等の行為を禁止とし、問題行為があった場合は単位を取得できない。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	絶対役立つ 臨床心理学 カウンセラーを目指さないあなたにも	藤田哲也監修 串崎真志編著	ミネルヴァ書房
参考書			
オフィスアワー	事務局に問い合わせてください。		

		理学療法学科	昼間部
科 目	内科学・老年学Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	佐久間 肇	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリ科専門医として臨床経験を積んできた。臨床での実例経験も紹介しながら講義を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科系疾患を合併している患者さんが多く、内科系疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科系疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライド利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。		
到達目標	主要な内科疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。		
授業形態	講義	「対面授業」もしくは「遠隔授業」	

授業計画		
回数		講義内容
1回	内科学総論 1	診療の流れ、身体診察法～検査
2回	内科学総論2	傷害に対する生体反応、発熱、動悸、咳・痰、呼吸困難、胸痛と腹痛など
3回	内科学総論3	吐血・下血、ショック、浮腫、胸水・腹水など
4回	内科学総論4	尿・便・血液、生理機能検査、画像検査
5回	呼吸器 1	肺の解剖と生理、症候と病態生理、臨床検査所見
6回	呼吸器 2	慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息
7回	呼吸器 3	拘束性肺疾患、肺縦郭腫瘍、肺腫瘍、肺循環障害、サルコイドーシスなど
8回	呼吸器 4	肺炎、ARDS、胸膜の疾患など
9回	循環器 1	心血管系の解剖と生理、主な症候、診断法、不整脈
10回	循環器 2	高血圧、低血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）
11回	循環器 3	弁膜症、心膜炎、心不全
12回	循環器 4	心筋疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患
13回	消化器 1	解剖と生理、症候と病態生理、検査法
14回	消化器 2	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患
15回	消化器 3	小腸疾患、大腸疾患、肛門疾患

成績評価	国家試験に準じた形式の試験(100%)を基本とし、提出課題点を加味して最終評価とする。	受講上のルール・留意点	私語を控えること
------	---	-------------	----------

課題やレポートに関するフィードバック
課題提出後の授業で正答を配布する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。		

		理学療法学科	昼間部
科 目	内科学・老年学Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	佐久間 肇	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリ科専門医として臨床経験を積んできた。臨床での実例経験も紹介しながら講義を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科系疾患を合併している患者さんが多く、内科系疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科系疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライド利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。		
到達目標	主要な内科疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。		
授業形態	講義	「対面授業」もしくは「遠隔授業」	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	肝胆膵疾患 1	肝胆膵腹膜の解剖と生理、検査法他
2回	肝胆膵疾患 2	肝胆疾患、膵疾患、腹膜疾患
3回	血液・造血器疾患 1	血液の成分と生理、造血と血液細胞の分化、症候、検査法、赤血球系の疾患
4回	血液・造血器疾患 2	白血球系の疾患
5回	血液・造血器疾患 3	出血性疾患、血栓性疾患
6回	代謝性疾患 1	代謝・栄養の異常総論、糖尿病
7回	代謝性疾患 2	脂質異常症、メタボリックシンドローム、アミロイドーシス、高尿酸血症
8回	内分泌疾患 1	内分泌総論、下垂体疾患
9回	内分泌疾患 2	甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
10回	腎・泌尿器疾患 1	腎の解剖と生理、症候と病態生理、検査法
11回	腎・泌尿器疾患 2	腎不全、糸球体疾患、尿細管疾患
12回	腎・泌尿器疾患 3	尿路系疾患、前立腺疾患、電解質代謝の異常
13回	膠原病 1	膠原病の診断と治療、SLE
14回	膠原病 2	RA、 強直性脊椎炎、シェーグレン症候群、 PAN
15回	膠原病 3	SSc、PM/DM、MCTD、ベーチェット病

成績評価	国家試験に準じた形式の試験(100%)を基本とし、提出課題点を加味して最終評価とする。	受講上のルール・留意点	私語を控えること
------	---	-------------	----------

課題やレポートに関するフィードバック
課題提出後の授業で正答を配布する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。		

		理学療法学科	昼間部
科目	整形外科学Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	植松 卓哉（代表）	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	整形外科医師	
	医師		

授業の位置づけ	整形外科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。 更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。前期では、整形外科学の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。 後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。		
到達目標	整形外科学の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業などの可能性	

授業計画			
回数	項目	担当講師	講義内容
1回	整形外科学と運動器の解剖	小原良規	整形外科とは、リハビリテーションとのかかわり、運動器解剖
2回	診断と治療総論	小原良規	整形外科診断学、治療法
3回	軟部組織損傷	小原良規	関節損傷軟部組織の外傷の総論、熱傷概論、筋区画症候群
4回	骨関節損傷総論	小原良規	骨折総論、関節損傷
5回	肩、肩甲帯	大久保敦	肩の外傷、肩関節脱臼、腱板損傷、上腕骨近位端骨折などの外傷
6回	肘	小寺訓江	肘関節周辺の骨折、肘関節周辺の外傷、変性疾患、下肢用症候群、絞扼性神経炎、前腕骨骨折、TFCC
7回	手	小寺訓江	手の解剖 神経支配
8回	手	小寺訓江	手指の変形性関節症（Heberden, CM関節症）、過使用症候群（腱炎など）、手関節～手指の外傷（橈骨遠位端骨折、手根骨骨折（舟状骨骨折、月状骨脱臼）、手指の骨折）
9回	脊椎疾患	川口宏志	腰椎の疾患、腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、神経根症、二分脊椎
10回	股関節	植松卓哉	解剖 変形性関節症 骨折、先天性股関節脱臼、ペルテス、骨盤骨折
11回	膝	大島康史	解剖 変形性膝関節症、膝関節の外傷
12回	脊椎疾患	川口宏志	頸椎の疾患、神経根症、など
13回	足	吉田啓紀	解剖 足関節外傷、足関節疾患
14回	脊椎疾患	小野孝一郎	脊髄損傷、急性期、慢性期、合併症（褥瘡、尿路感染症、肺炎など）
15回	脊椎疾患	小野孝一郎	上肢機能、高位分類

成績評価	テスト 100%	受講上のルール・留意点	国家試験に準じた設問
------	----------	-------------	------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	整形外科学テキスト（改定第4版）	高橋 邦奏、芳賀 信彦 編	南江堂
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	整形外科科学Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	植松 卓哉（代表）	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	整形外科医師	
	医師		

授業の位置づけ	整形外科科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。 これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。 前期では、整形外科科学の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。 後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。		
到達目標	整形外科科学の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業などの可能性	

授業計画			
回数	項目	担当講師	講義内容
1回	ロコモティブシンドローム	吉田啓紀	ロコモティブシンドロームの概念、運動器不安定症、フレイル、高齢者の運動器
2回	リウマチ性疾患 1	眞島任史	関節リウマチ
3回	リウマチ性疾患 2	友利裕二	脊椎関節炎 自己免疫疾患と骨関節症
4回	関節疾患	大久保敦	変形性関節症 痛風 血友病性関節症
5回	感染症	川口宏志	化膿性関節炎、骨髄炎、骨関節の感染症
6回	代謝、内分泌疾患	吉田啓紀	骨粗鬆症の概念、診断、治療、トピックス
7回	脳性麻痺	友利裕二	脳性麻痺 原因 発達 病型
8回	神経筋疾患	小寺訓江	末梢神経障害（上肢）
9回	神経筋疾患	大島康史	末梢神経障害（下肢）、筋疾患
10回	骨系統疾患・骨端症	植松卓哉	骨系統疾患・骨端症
11回	腫瘍、	北川泰之	運動器の腫瘍（骨腫瘍、軟部腫瘍）、腫瘍性疾患
12回	血行障害・慢性疼痛疾患	友利裕二	血行障害・慢性疼痛症候群（CRPS、 線維筋痛症、など）
13回	切断	北川泰之	切断肢（切断術、義肢、合併症、リハビリテーション）
14回	補装具と整形外科	春日勇輝	補装具の役割
15回	スポーツ整形外科	大久保敦	障害者スポーツ、スポーツ外傷、スポーツ障害、疲労骨折、RICE、 など

成績評価	テスト 100%	受講上のルール・留意点	国家試験に準じた設問
------	----------	-------------	------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	高橋 邦奏、芳賀 信彦 編	高橋 邦奏、芳賀 信彦 編	南江堂
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		理学療法学科 昼間部	
科目	神経内科学	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	田口 丈士	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	病院勤務 20 年以上、臨床経験の実例をもとに授業をすすめていく	
	医師		

授業の位置づけ	神経内科学を理解する		
到達目標	神経内科学総論・各論		
授業形態	講義	対面または遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1 回	神経系の診察Ⅰ	意識障害・運動系
2 回	神経系の診察Ⅱ	感覚系・自律神経系
3 回	神経系の検査	CT・MRIなど
4 回	脳血管障害Ⅰ	虚血性脳血管障害
5 回	脳血管障害Ⅱ	出血性脳血管障害
6 回	脳血管障害Ⅲ	その他の脳血管障害
7 回	変性疾患Ⅰ	パーキンソニズム
8 回	変性疾患Ⅱ	脊髄小脳変性症・運動ニューロン疾患ほか
9 回	脱髄性疾患	多発性硬化症ほか
10回	末梢神経疾患	ギラン・バレー症候群ほか
11回	筋疾患	筋ジストロフィーほか
12回	神経筋接合部疾患・腫瘍・脊髄疾患	重症筋無力症ほか
13回	感染性疾患	髄膜炎ほか
14回	内科系疾患・外傷・自律神経疾患	内科系疾患に伴う神経障害など
15回	機能性疾患・認知症	頭痛・めまい・てんかん、アルツハイマー病ほか

成績評価	筆記試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の 3 分の 1 を超えて欠席した者には単位を与えない
------	------	-------------	----------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	「病気がみえるvol. 7脳・神経」	尾上 尚志	メディック・メディア
参考書	ベッドサイドの神経の診かた 第18版 田崎義昭・斎藤佳雄 著 南山堂		
オフィスアワー			

理学療法学科 昼間部			
科 目	小児科学	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	高木 篤史 他	学 年	2年生 ・ 前期
実績経験	資格	臨床経験 20 年以上	
	医師、日本小児科学会専門医		

授業の位置づけ	PT・OTは発達障害領域のリハビリテーションにおいて、積極的に児とかかわっていく。リハビリテーションを実施する以前に、小児科領域における疾患や障害の特性などを把握しておくことは必須の課題である。本講義を通して小児・思春期に特有の疾患・障害、またその治療方法について理解を深める。		
到達目標	代表的な小児疾患の特徴およびその治療方法について説明することが出来る。		
授業形態	講義を中心に行う	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	成長・発達（高木）	小児科学の総論、成長発達過程について
2回	神経疾患（岡田）	けいれん性疾患、てんかん、など
3回	先天異常（右田）	先天異常、遺伝子病、遺伝カウンセリング、について
4回	骨・筋疾患（高木）	神経筋疾患、筋ジストロフィー、てんかん、脳性麻痺、ボツリヌス治療など
5回	発達障害（平山）	発達障害、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、について
6回	重症心身障害児（平山）	脳性麻痺について、
7回	小児の代表的な疾患 1（右田）	新生児仮死、呼吸器・消火器疾患、川崎病など
8回	小児の代表的な疾患 2（植田）	小児の予防接種・感染症、発熱、血液疾患、について

成績評価	試験88％、課題12％	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	-------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
担任を通して行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 ナースのミカタ 小児看護	富田 豊 右田 真	医学書院 医学書院
オフィスアワー	クラス担任を通して、担当講師に連絡しますので、 クラス担任に相談ください。		

科 目	理学療法セミナーⅡ		単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	高瀬 慎輔		学 年	2年生 通年
実績経験	資格	理学療法士として、回復期病棟、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、訪問リハ、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	今までに学んだ解剖学と生理学の復習を通して理解を深めてその後の検査測定等を基礎から理解して行えるようにする。 1. 人体の構造、筋や関節について説明できる。 2. 各神経の機能について説明できる。 3. 各臓器の機能や構造について説明できる。		
到達目標	人体の内臓、筋、関節、神経等の部位や名称を正しく理解できる 各臓器の機能について正しく理解できる		
授業形態	講義・演習		併用授業

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	骨について	名称
2回		部位
3回		フィードバックと確認
4回	関節について	関節の形状
5回		各関節について
6回		フィードバックと確認
7回	筋・靱帯について	筋の構造と靱帯構造
8回		筋の機能と靱帯機能
9回		フィードバックと確認
10回	中枢神経について	脳について
11回		脊髄について
12回		フィードバックと確認
13回	末梢神経について	自律神経について
14回		その他の神経について
15回		フィードバックと確認
16回	循環器について	循環器の構造
17回		循環器の機能
18回		フィードバックと確認
19回	呼吸器について	呼吸器の構造
20回		呼吸器の機能
21回		フィードバックと確認
22回	泌尿器について	泌尿器の構造
23回		泌尿器の機能
24回		フィードバックと確認
25回	消化器について	消化器の構造
26回		消化器の機能
27回		フィードバックと確認
28回	内分泌系について	内分泌系の構造
29回		内分泌系の機能
30回		フィードバックと確認

成績評価	定期試験：筆記試験70～80％ 提出物等：20～30％	受講上のルール・留意点	後期はグループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけないことを常に心がけること
------	--------------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	解剖学・運動学・生理学の授業で使用した教科書		
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 s-takase@nichireha.ac.jp		

理学療法 学科 昼 間 部			
科 目	検査測定法Ⅲ	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	塩澤和人・佐藤和世	学 年	2年生 前期
実績経験	資 格	塩澤和人:実務経験18年 理学療法士として、回復期・急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 佐藤和世:実務経験22年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床、クリニックに勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では主に中枢神経疾患に用いられる理学療法検査の特徴を理解し、説明できるようになることを目的とする。幅広い疾患に実践するために、疾患病巣の特徴を理解し、検査項目を選択できるようにする。 1年次の基礎科目との関連を理解しておく。解剖・生理・運動学の内容を踏まえて検査が実施されていくため、各科目の復習をしておくこと。		
到達目標	各検査の要項と実施方法を理解し、説明することができる。 各検査を状況に応じて実施することができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	各検査方法の概要と実際の説明
2回		
3回	脳神経検査	脳神経検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
4回		
5回		
6回		
7回	反射・痛みの検査	反射・痛みの検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
8回		
9回		
10回	筋緊張・協調性検査	筋緊張・協調性検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
11回		
12回		
13回	麻痺検査	麻痺検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
14回		
15回		
16回	高次脳機能検査	高次脳機能検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
17回		
18回		
19回	姿勢反射検査	姿勢反射検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
20回		
21回	バランス検査	バランス検査の検査要項と実施の方法を学ぶ
22回		
23回		

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	動きやすい服装での参加
------	----------	-------------	-------------

課題やレポートに関するフィードバック
個別もしくは全体に必要なに応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	理学療法評価学 第6版補訂版	松澤正 他	金原出版
参考書	図解 理学療法 検査・測定ガイド 第2版	奈良勲 内山靖 編集	文光堂
オフィスアワー	授業前後およびメール 塩澤：k-shiozawa@nichireha.ac.jp 佐藤：k-sato@nichireha.ac.jp		

理学療法 学科 昼 間 部			
科 目	検査測定法Ⅳ【整形・動作】	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	土手 延恭	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	実務経験 20年 整形外科急性期・慢性期・外来リハ、通所リハ・訪問リハ・介護予防教室運営を経験、現在非常勤として整形外科クリニック・有料老人ホームでの臨床業務を行っている。その現場での実務経験を踏まえて講義・演習を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	理学療法分野では、整形外科（運動器）疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・循環器疾患の患者が多い。この授業で扱う整形外科分野では、とりわけ「痛み」が原因で受診する患者が多い。整形外科医師も整形外科テストを行うが、医師の場合は診断に利用する。理学療法士の場合は、機能評価・理学療法の効果検証として行う側面が強い。整形外科疾患は、外傷でも非外傷でも起こりうるが、1年次に学んだ解剖学・運動学の知識を用いたり、かつ検査測定法Ⅰ・Ⅱの知識・技術と合わせて評価するとより状態の把握ができるようになる。臨床では、様々な疾患・症状をもつ患者様とお会いする。3年時の臨床実習Ⅰ以降、スムーズに現場で検査を行えるようオリエンテーションから演習していく。		
到達目標	１．解剖学・生理学・運動学の知識から整形外科テストで何が分かるのか説明することができる。 ２．他の検査結果と合わせて考え、患者の状態を理解することができる。 ３．様々な基本動作を分析し、その機能障害を説明することができる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	姿勢分析, 頸部（１）	オリエンテーション・ 演習：学生同士でお互いの逸脱所見を観察・記載、頸部の整形外科テストを実施①
2回	頸部（２）	演習：頸部の整形外科テストを実施②
3回	肩関節（１）	演習：肩関節の整形外科テストを実施①
4回	肩関節（２）	演習：肩関節の整形外科テストを実施②
5回	肘・手関節	演習：肘・手関節の整形外科テストを実施
6回	上肢のまとめ	演習：上肢の整形外科テストの結果から原因を導き出す
7回	胸腰椎	演習：胸腰椎の整形外科テストを実施
8回	骨盤	演習：骨盤の整形外科テストを実施
9回	股関節（１）	演習：股関節の整形外科テストを実施①
10回	股関節（２）	演習：股関節の整形外科テストを実施②
11回	膝関節（１）	演習：膝関節の整形外科テストを実施①
12回	膝関節（２）	演習：膝関節の整形外科テストを実施②
13回	足関節	演習：足関節の整形外科テストを実施
14回	下肢のまとめ	演習：下肢の整形外科テストの結果から原因を導き出す
15回	全身	演習：姿勢評価・応用評価

成績評価	定期筆記試験１００％ 合計１００％	受講上のルール ・留意点	1. 授業では毎回リフレクションシートの記載を課すのでその場で提出すること 2. 実技では動きやすい服装（基本は短パン、Tシャツ）の準備をすること 3. 講義の次の回に確認テストを行うので、しっかり復習すること
------	--------------------------	-----------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
実技演習に関しては、机間巡回中に行う。またリフレクションシートには、質問欄を設けているので、その記載に合わせてフィードバックを行う。疑問・質問に関しては、メールで随時対応、時間外にも対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	病態動画から学ぶ 臨床整形外科テスト	吉田一也、隅元庸夫	HUMAN PRESS
参考書	写真で学ぶ 整形外科テスト法 増補改訂新版	ジョーゼフ・J・シプリアーノ	医道の日本社
オフィスアワー	研修日（水曜日） メールでの連絡は随時 n-dote@nichireha.ac.jp	※その他、理学療法評価のテキスト参照	

理学療法学科 昼間部			
科目	P B LセミナーⅡ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本奈々子、高林 礼子、他 P T 教員	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	・塚本奈々子：実務経験 2 0 年 理学療法士として、大学病院、地域の回復期、療養型病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。 ・高林 礼子：実務経験 2 7 年 急性期病院、特養、通所、訪問の他、教育機関にも常勤として勤務。実務経験を活かし講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	症例情報を基に今まで学んだ医学的基礎知識や理学療法評価の理解を深め、グループディスカッションや実技を通して自ら学んでいく。 3年次のOSCEに向け、1.2年で学んだ評価について総復習を行うだけでなく、各疾患と評価の適正や状況に応じた環境設定についても考え、実践できるように取り組む。 これらの過程で理学療法士の臨床思考を身につけていくことを目的とする。		
到達目標	・医学的基礎知識と症例情報を統合し、必要な評価項目を選択できる。 ・選択した評価の目的や方法を説明できる。 ・基本的な評価方法を理解した上で、症例に応じた方法に環境を調整できる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	内容
1回	オリエンテーション	授業の目的と実施内容について
2回	リスク管理	実習における一般的なリスク管理について学習
3回	症例検討①	整形症例について、基礎知識の確認後、必要評価の立案
4回		
5回	評価の復習/実技	実施評価について目的・方法を確認し、実技練習を行う
6回		
7回	実技指導/検査者	実技について教員より個別指導
8回	実技指導/被験者	他学年との交流。他学年の課題発表にアドバイス、実技指導を行う
9回		
10回	症例検討②	中枢症例について、基礎知識の確認後、必要評価の立案
11回		
12回	評価の復習/実技	実施評価について目的・方法を確認し、実技練習を行う
13回		
14回	実技指導/検査者	実技について教員より個別指導
15回	振り返り	演習についてよかった点や今後の課題を整理する

成績評価	授業内実技：20％ 課題提出：80％	受講上のルール・留意点	他学年との交流は、上級生として模範となるよう言動を意識すること。
------	-----------------------	-------------	----------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業中・前後にしてください。		

科 目	物理療法 I		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	篠田良平		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	篠田良平 実務経験30年 理学療法士として回復期病院、総合病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。 高林礼子 実務経験27年 急性期病院、特養、通所、訪問などに勤務。教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かして講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	PT（Physical Therapist）の語源となった学問である。物理エネルギーを人体に作用させた生理的反応を治療に用いる。代表的な治療として温熱、寒冷、電気、光線、牽引等があるが、それぞれの属性により使い方があり、それを誤ると事故にもつながるので明確に禁忌が提示されている。基本的な使用法と禁忌を学びながら科学的実験の要素を取り入れ、物理エネルギーの特性を目で確認して理解を深めていく。 授業方法はプリント・パワーポイントを主とした講義形式。治療機器の体験演習では機器を使用する場面を見せながら、実際に自分でも体験する。		
到達目標	○物理的エネルギーの種類と人体に及ぼす効果を理解する。 ○各治療法の禁忌を理解し覚える。 ○各治療法を自分で体験する。		
授業形態	講義・演習		対面授業

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	電気療法	電気療法の生理的効果、通電による治療法と禁忌
2回	電気療法	FESとTESの臨床適応
3回	電気療法	骨電気療法の使用と禁忌
4回	光線療法	紫外線・レーザー療法の使用と禁忌
5回	牽引療法	頸椎牽引と腰椎牽引の使用と禁忌
6回	CPM	CPMの効果と各関節毎の違い
7回	バイオフィードバック	バイオフィードバック療法の原理と利用方法
8回	物理療法の概念	物理療法の概念、効果と目的
9回	温熱療法	温熱療法の生理的効果、熱伝導を用いた治療法と禁忌
10回	温熱療法	放射熱を用いた治療法と禁忌
11回	温熱療法	エネルギー変換熱を用いた治療法と禁忌
12回	寒冷療法	寒冷療法の生理的効果
13回	寒冷療法	寒冷を用いた治療法と禁忌
14回	水治療法	水治療法の使用と禁忌
15回	温熱寒冷療法	治療機器の操作と体験

成績評価	定期試験：筆記試験100％	受講上のルール・留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中する。
------	---------------	-------------	--------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	物理療法学	吉田英樹	メジカルビュー
オフィスアワー	担当授業の前後		

科目	日常生活活動学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	鍋城 武志		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	実務経験22年 急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	人と向かい合うことを基本としている理学療法において、日常生活活動（ADL）は運動療法とともに大きな領域を占めている。寝返りや座位といった基本動作のほかに、生命維持のための食事、更衣、排泄などの身辺動作（セルフケア）、社会性を維持するために必要となる、交通機関の利用、コミュニケーションなどを含めたADLの評価と指導が広く行われている。この授業では、臨床現場でリハビリの対象となりうる代表的な疾患に対して、各々の疾患の特徴を確認しながらADL指導・介助方法を学ぶ。		
到達目標	1. 代表的疾患に対するADL指導、介助法を理解する。 2. 代表的疾患に対するADL訓練・指導ができる。 3. 在宅復帰に向けたADL指導が考えられる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	ADLについて、セルフケア、起居移乗動作について
2回	疾患別ADL指導（骨・関節）	下肢疾患に対するADLアプローチ
3回	疾患別ADL指導（骨・関節）	下肢疾患に対するADLアプローチ
4回	疾患別ADL指導（骨・関節）	上肢疾患に対するADLアプローチ
5回	疾患別ADL指導（中枢）	片麻痺に対するADLアプローチ
6回	疾患別ADL指導（中枢）	片麻痺に対するADLアプローチ
7回	疾患別ADL指導（中枢）	パーキンソン病に対するADLアプローチ
8回	疾患別ADL指導（中枢）	筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症に対するADLアプローチ
9回	疾患別ADL指導（中枢）	脊髄損傷、脳性麻痺に対するADLアプローチ
10回	疾患別ADL指導（中枢）	脊髄損傷、脳性麻痺に対するADLアプローチ
11回	疾患別ADL 「視力障がい」	障がいの特徴、白杖の役割
12回	疾患別ADL 「その他の疾患」	リウマチ、内部障害、高齢者などに対するADLアプローチ
13回	疾患別ADL 「その他の疾患」	リウマチ、内部障害、高齢者などに対するADLアプローチ
14回	在宅復帰に向けたADL指導	退院・退所に向けた指導・評価のポイント
15回	在宅生活のADL	在宅でのADL指導の留意点

成績評価	定期試験：筆記試験（100％）	受講上のルール・留意点	授業中は私語を謹んで授業に集中する。 実技では動きやすい服装を準備する。また空いた時間は繰り返し復習する。
------	-----------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第6版	鶴見隆正、隆島研吾編集	医学書院
参考書	新 イラストによる 安全な動作介助のてびき 第3版	飛松好子 編著	医歯薬出版株式会社
	病気がみえる vol.7 脳・神経		医療情報科学研究所
オフィスアワー	担当授業の前後		

理学療法学科 昼間部			
科 目	疾患別理学療法Ⅰ-A（整形外科）	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	木下 修・塚本 奈々子	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	義肢装具士として42年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として32年、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。	
	理学療法士（33年） 義肢装具士（43年）		

授業の位置づけ	整形外科疾患は病態が骨、関節、筋・腱などにあり、直接的に運動・動作に影響を及ぼすため、機能改善、社会復帰のためにはリハビリテーションが担う役割は大きい。また、変性や外傷により神経にも影響を及ぼす場合、運動・感覚麻痺への対応もする必要があり、病態と症状の把握には十分な理解が求められる。 そのため、疾患の特徴と運動器障害に対する理学療法の評価・治療について演習を通して説明・解説・実技指導する。2年次で学ぶ検査・測定法の応用や周術期におけるリハビリテーションの流れと対応、時期に応じた介入方法について説明する。 授業方法は講義が30%、実技演習が70%である。		
到達目標	整形外科疾患における組織再生・修復過程について、各疾患の病態を理解し、説明できる。 各疾患（上肢・脊椎疾患、脊髄損傷）における主要な問題を理解し、評価と治療を考えることができる。 疾患別における動作の特徴を捉え、それを表現できる。 整形外科疾患の特徴を理解し、日常生活の支援について説明する。		
授業形態	講義・実習	併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	運動器の運動療法とは
2回	運動療法の基礎	運動療法の技術的基礎
3回	運動器損傷の評価	評価と治療の原則
4回	末梢神経障害	末梢神経の構造と評価、治療
5回	頭頸部	関節運動の基礎
6回	胸椎と胸郭	関節運動の基礎
7回	胸椎と胸郭	関節の評価と治療
8回	脊髄損傷	脊髄損傷の病理、評価、A D L
9回	脊髄損傷	脊髄損傷の床上動作（演習）
10回	脊髄損傷	脊髄損傷の移乗動作（演習）
11回	脊髄損傷	脊髄損傷の移動（演習）
12回	肩関節と肩甲骨	関節運動の基礎と評価
13回	肩関節と肩甲骨	関節運動の評価と治療
14回	肘関節・手関節	関節運動の基礎と評価
15回	肘関節・手関節	関節運動の基礎と治療

成績評価	授業の課題レポート 筆記試験で評価をします。	受講上のルール・留意点	動きやすい服装（半袖、短パン）、観察しやすい服装を用意ください。 ジーパン・動きにくい服装は控えてください。 お互いの身体を利用しながら学習をおこないますので、互いに気遣いましょう。
------	---------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	運動器の運動療法	小柳磨毅	羊土社
参考書	基礎運動学第6版	中村隆一	医歯薬出版
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 0-kinoshita@nichireha.ac.jp		

理学療法 学科 昼 間 部			
科 目	疾患別理学療法ⅠB（整形）	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	土手 延恭	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	実務経験 20年 整形外科急性期・慢性期・外来リハ、通所リハ・訪問リハ・介護予防教室運営を経験、現在非常勤として整形外科クリニック・有料老人ホームでの臨床業務を行っている。その現場での実務経験を踏まえて講義・演習を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	疾患別理学療法ⅠBでは、整形疾患の下肢・体幹を取り扱う。 3年次の臨床実習Ⅰ（評価実習）以降は、”思考力”を用いて、患者・利用者の問題を解決するべく、目標を設定し、理学療法プログラムを立案し、理学療法を実施、治療効果の確認と「臨床推論」の一連の流れが重要となる。解剖学・生理学・運動学・検査測定法などで学んだ知識、機能解剖学・検査測定法・運動療法学等で身に着けた技術を活かし、授業に臨む必要がある。「事前評価→理学療法実施→事後評価」という流れを多く経験し、臨床現場へ繋げる。		
到達目標	1. 下肢・体幹における痛み・関節可動域制限・筋力低下・バランス異常・アライメント異常など、患者・利用者に 起こりやすい解剖学・運動学的な問題を理解し、説明できる。 2. 解剖学的知識を用いて、標的組織を理解し、適切にアプローチする方法を経験できる。 3. 臨床思考を行い、各検査測定結果の原因を説明できる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	足関節・足部（１）	姿勢動作分析・足部および足関節評価・足部癒着の改善演習
2回	足関節・足部（２）	姿勢動作分析・足部および足関節評価・足部周囲筋力強化演習
3回	股関節（１）	姿勢動作分析・股関節評価・股関節周囲の癒着改善演習
4回	股関節（２）	姿勢動作分析・股関節評価・股関節周囲の筋力強化演習
5回	膝関節（１）	姿勢動作分析・膝関節評価・膝関節周囲癒着改善演習
6回	膝関節（２）	姿勢動作分析・膝関節評価・膝関節周囲筋力強化演習
7回	前半まとめ（１）	足関節・股関節・膝関節のまとめ演習
8回	前半まとめ（２）	足関節・股関節・膝関節のまとめ演習
9回	脊柱（１）	姿勢動作分析・脊柱評価・脊柱周囲癒着改善演習
10回	脊柱（２）	姿勢動作分析・脊柱評価・脊柱周囲筋力強化演習
11回	骨盤（１）	姿勢動作分析・骨盤評価・骨盤周囲癒着改善演習
12回	骨盤（２）	姿勢動作分析・骨盤評価・骨盤周囲筋力強化演習
13回	後半まとめ（１）	姿勢動作分析・骨盤評価・骨盤周囲筋力強化演習
14回	後半まとめ（２）	等尺性収縮後弛緩・相反抑制
15回	応用	下肢・体幹総復習（２）～その他

成績評価	定期筆記試験１００％ 合計１００％	受講上のルール ・留意点	1. 授業では毎回リフレクシオンシートの記載を課すのでその場で提出すること 2. 実技では動きやすい服装（基本は短パン、Tシャツ）の準備をすること 3. 講義の次の回に確認テストを行うので、しっかり復習すること
------	--------------------------	-----------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
実技演習に関しては、机間巡回中に行う。またリフレクシオンシートには、質問欄を設けているので、その記載に合わせてフィードバックを行う。疑問・質問に関しては、メールで随時対応、時間外にも対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 局所と全身からアプローチする	小柳磨毅、中江徳彦、井上悟	羊土社
参考書	授業資料		
オフィスアワー	研修日（金曜日） メールでの連絡は随時 n-dote@nichireha.ac.jp	※その他、理学療法評価のテキスト参照	

		理学療法 学科	昼 間 部
科 目	疾患別理学療法Ⅱ－A【中枢】	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	佐藤和世	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	佐藤和世：実務経験22年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床、クリニックに勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では、中枢神経疾患における片麻痺患者の理学療法について学習する。片麻痺患者は脳血管障害によるものが多く、「脳卒中治療のガイドライン」においても急性期から回復期、維持期に渡って多職種による包括的なリハビリテーションが推奨されている。その中で理学療法士が果たす役割は重要であるが、アプローチ理論が完成されていないのが現状である。したがってこの授業では基本的なアプローチ方法に触れ、脳卒中片麻痺患者への理学療法の全体像をとらえることを目的とする。 以下の内容を理解する。 1．脳卒中片麻痺患者の基本的な障害像 2．急性期、回復期、維持期の理学療法		
到達目標	1．脳卒中片麻痺患者の病態を説明できる。 2．麻痺の回復と神経系・脳の可塑性について説明できる。 3．急性期、回復期、維持期の各期の理学療法の目的と方法について説明できる。 4．リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドラインに基づきリスク管理ができる。 5．痙性に対する理学療法を説明できる。 6．片麻痺患者の合併症について説明できる。 7．脳卒中のCT, MRI画像を判読できる。		
授業形態	講義、実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	病態	中枢神経疾患の病態
2回	病態	運動麻痺と伝導路
3回	麻痺の回復	神経系・脳の可塑性と麻痺の回復
4回	急性期	目的、リスク管理とガイドライン
5回	急性期	関節可動域練習の注意点（肩・股）
6回	急性期	ポジショニング、ギャッジアップから離床
7回	回復期	治療の原則、随意運動の促通（上肢、下肢）、体幹筋の促通
8回	回復期	寝返り、起き上がり、座位バランス練習
9回	回復期	立ち上がり、立位バランス、片脚立位練習
10回	回復期	歩行練習と異常歩行
11回	維持期・生活期	身体機能・能力の自己管理方法
12回	合併症	拘縮、異所性骨化、肩手症候群、CRPS、肩関節亜脱臼、嚥下障害
13回	評価	SIAS
14回	評価	NIHSS GOSその他
15回	画像	CT、MRI画像の判読

成績評価	筆記試験（100％）	受講上のルール・留意点	実技に際しては動きやすい服装で参加する
------	------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
個別もしくは全体に必要な応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	神経障害理学療法学Ⅰ 第2版	責任編集：大畑光司（京都大学） 総編集：石川 朗（神戸大学）	中山書店
参考書	病気が見える⑦ 脳・神経	医療情報科学研究所	メディックメディア
オフィスアワー	授業前後およびメール k-sato@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	疾患別理学療法Ⅱ－B（高齢者）	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	高林 礼子	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	高林：実務経験27年間（病院、特養、通所、訪問等）の経験を踏まえて講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	わが国では急速に高齢化が進み、高齢者が理学療法の対象となる頻度も多くなっている。高齢者に対する理学療法を実践する上で高齢者の特徴の理解や必要な評価、トレーニングの理論などに重きを置いて授業を進める。実例などを交え、具体的なアプローチなどを学ぶ。		
到達目標	1．高齢者の特徴を理解し、説明できる。 2．高齢者に対する機能評価を理解し、説明できる。 3．高齢者に対する理学療法とそのエビデンスを理解し効果的な関わり方を理解する。		
授業形態	講義、演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論 高齢者の特徴①	高齢者の基礎、老年症候群、フレイルとサルコペニアなど
2回	高齢者の特徴②	認知症、転倒など
3回	総論 加齢に伴う心身機能の変化①	生理的变化、体力や姿勢の変化など
4回	総論 加齢に伴う心身機能の変化②	精神心理・認知機能の変化など
5回	各論 高齢者の機能評価①	身体機能、生活活動能力評価、生活機能評価
6回	各論 高齢者の機能評価②	認知機能や精神・心理機能評価、QOL・社会活動の評価
7回	各論 高齢者に対する理学療法①	筋力、持久力、バランス、歩行トレーニング、身体活動促進に対するアプローチ
8回	各論 高齢者に対する理学療法②	転倒・骨折予防、認知症予防

成績評価	筆記試験60％ 授業中小テスト40％	受講上のルール・留意点	授業内容の復習を行うこと
------	-----------------------	-------------	--------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、全体及び個人へ行う

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学	編集：池添冬芽	メジカルビュー社
オフィスアワー	高林：授業前後及びメール（r-takabayashii@nichireha.ac.jp）		

理学療法学科				昼 間 部	
科 目	疾患別理学療法Ⅲ-A		単位・時間数	1単位・30時間	
担当講師	塚本奈々子		学 年	2年生 前期	
実績経験	資格	実務経験：20年			
	理学療法士	理学療法士として、大学病院、地域の回復期、療養型病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。			
授業の位置づけ	この授業では、神経筋疾患の特徴について学び、各疾患の病態を理解したうえで、必要な評価項目の選択や運動プログラムの立案を学習する。 学習する疾患は以下の通りである。 1. 脊髄小脳変性症 2. パーキンソン病 3. 筋萎縮性側索硬化症 4. 重症筋無力症				
到達目標	1. 各疾患の病態や特徴を述べるができる。 2. 各疾患の障害構造を評価するための評価項目が選択できる。 3. 各疾患の理学療法プログラムを立案できる。				
授業形態	講義		対面授業		
授業計画					
回数	項目	講義内容			
1回	総論	授業の目的、病態の確認			
2回	筋萎縮性側索硬化症	病態と症状、障害像の確認			
3回		評価とリスク管理、理学療法			
4回		症例検討			
5回	脊髄小脳変性症	病態と症状、障害像の確認			
6回		評価とリスク管理			
7回		失調に対する運動療法			
8回		症例検討			
9回	パーキンソン病	病態と症状、障害像、大脳基底核の機能の確認			
10回		評価、リスク管理			
11回		運動療法とADL管理			
12回		症例検討			
13回	重症筋無力症の概要	病態と症状、障害像の確認			
14回		評価とリスク管理、運動療法			
15回	総括	各疾患の復習			
成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない。		
課題やレポートに関するフィードバック					
必要に応じて、授業内で全体に行う					
	書名	著書名	出版社名		
教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA		
参考書	神経障害系理学療法学	丸山仁司 編	医歯薬出版		
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業前後に声をかけてください				

理学療法学科				昼 間 部	
科 目	疾患別理学療法Ⅲ-B		単位・時間数	1単位・30時間	
担当講師	塚本奈々子		学 年	2年生 後期	
実績経験	資格	実務経験：20年			
	理学療法士	理学療法士として、大学病院、地域の回復期、療養型病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。			
授業の位置づけ	この授業では、神経筋疾患の特徴について学び、各疾患の病態を理解したうえで、必要な評価項目の選択や運動プログラムの立案を学習する。 学習する疾患は以下の通りである。 1. 多発性硬化症 2. ポリオ 3. ギランバレー症候群 4. 多発筋炎・皮膚筋炎 5. 筋ジストロフィー				
到達目標	1. 各疾患の病態や特徴を述べることができる。 2. 各疾患の障害構造を評価するための評価項目が選択できる。 3. 各疾患の理学療法プログラムを立案できる。				
授業形態	講義		対面授業		
授業計画					
回数	項目	講義内容			
1回	多発性硬化症	総論、脱髄疾患			
2回		病態と症状、障害像の確認			
3回		評価とリスク管理、理学療法			
4回		症例検討			
5回	末梢神経障害	末梢神経障害の原因と病態理解			
6回	ポリオ	病態と症状、障害像の確認、評価とリスク管理、理学療法			
7回	ギランバレー症候群	病態と症状、障害像の確認			
8回		評価とリスク管理、理学療法			
9回		症例検討			
10回	多発筋炎・皮膚筋炎	病態と症状、障害像の確認			
11回		評価とリスク管理、理学療法			
12回		症例検討			
13回	筋ジストロフィー	病態確認、疾患の分類と類似疾患（筋強直性ジストロフィー）について			
14回		リスク管理、評価、治療、ADL指導について			
15回	総括	復習			
成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない。		
課題やレポートに関するフィードバック					
必要に応じて、授業内で全体に行う					

		理学療法学科	昼間部
科 目	疾患別理学療法Ⅳ-A（呼吸）	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	鍋城 武志	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	実務経験 22年 理学療法士として、急性期病院、教育機関に常勤として勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	人口構造の高齢化に伴う呼吸器疾患患者の増加は世界的規模である。慢性閉塞性肺疾患は死亡原因の第3位である。呼吸リハビリテーションは多くのエビデンスが集積され、特に運動療法の継続が重要視されている。本授業では呼吸器疾患の理学療法ができるようになるために、呼吸器疾患の病態、評価、理学療法について実技を交えて解説する。 授業方法は「講義」「実技」を予定している。 呼吸器に関する解剖学、生理学を理解しておくことが望ましい。		
到達目標	1．呼吸器疾患の病態を説明できる。 2．呼吸疾患疾患に必要な評価項目を列挙できる。 3．呼吸器疾患の理学療法ができる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	呼吸リハビリテーションとは	呼吸リハビリテーションの歴史、適応
2回	呼吸器基礎①	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病態
3回	呼吸器基礎②	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病態
4回	呼吸機能検査	スパイログラム、フローボリューム曲線、胸部X線
5回	フィジカルアセスメント①	視診・問診・触診・打診・聴診
6回	フィジカルアセスメント②	6分間歩行テスト、Shuttle Walking Test、ADL・QOL評価
7回	呼吸理学療法①	コンディショニング、運動療法、ADL指導
8回	呼吸理学療法②	コンディショニング、運動療法、ADL指導
9回	酸素療法	酸素療法の種類、在宅酸素療法
10回	人工呼吸器	種類、構造、換気モード、病態
11回	急性期の呼吸リハビリテーション	周術期呼吸リハビリテーション、人工呼吸器管理での呼吸リハビリテーション
12回	安定期の呼吸リハビリテーション	COPD患者に対する呼吸リハビリテーション
13回	吸引①	意義、感染対策と実技
14回	吸引②	吸引実技
15回	総まとめ	まとめ

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	実技では動きやすい服装の準備をすること。 上衣はTシャツ等が好ましい
------	----------	-------------	---------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
実技に関するフィードバックは実技練習中、練習の後、個別または全体に対して適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第3版	石川朗 総編集	中山書店
参考書	リハビリテーションに活かす呼吸・循環モニタリング モニター心電図から生体情報を読み解く	美津島 隆、山内 克哉 監修	メジカルビュー社
オフィスアワー	担当授業の前後		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	疾患別理学療法Ⅳ-B（循環代謝）	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	高瀬 慎輔	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	理学療法士として、回復期病棟、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、訪問リハ、教育機関に携わった実務経験を活かし、事例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	内部障害（呼吸・循環・代謝障害）者は外部からは障害があることがわかりにくい（いわゆる“見えない障害”）ため、周囲の理解が得られにくいという不利益を受けやすい。理学療法では、いかにしたらできるようになるかという障害学的分析に加えて、なぜそのような状態なのか、その症状や症候はどこから来ているのか、医学的情報を収集し、病態生理を理解する症候学的分析も重要である。「症状の正しい観察」こそが臨床理学療法の第一歩であり、観察を通じた患者の理解こそが内部障害理学療法の最大の醍醐味でもある。 本授業では、循環代謝障害に対する理学療法について、病態の理解、評価、理学療法等を解説する。授業方法は、「講義」「ケーススタディ」「ディスカッション」「グループ発表」で構成される。循環器系の解剖と生理の概要を理解しておくこと。		
到達目標	1．各疾患の病態を説明し、評価、理学療法、リスク管理、患者教育ができる。 2．心電図をみて、不整脈の種類とリスク管理を説明できる。 3．適切な運動強度を接敵できる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	心リハの概要	目的、効果、対象疾患、循環器系の解剖と生理
2回	起立性低血圧	発症機序と対応・予防
3回	虚血性心疾患①	心不全のメカニズムと症状・リスク管理
4回	虚血性心疾患②	心疾患の理学療法
5回	不整脈と心電図①	心電図の基本事項、刺激伝導系
6回	不整脈と心電図②	正常洞調律の波形の理解
7回	不整脈と心電図③	心房細動、心房粗動、期外収縮
8回	不整脈と心電図④	重症不整脈、ブロック波形
9回	不整脈と心電図⑤	虚血と梗塞
10回	代謝疾患①	評価、低血糖のリスク管理等
11回	代謝疾患②	糖尿病の病態と合併症
12回	代謝疾患③	運動療法
13回	代謝疾患④	食事療法
14回	代謝疾患⑤	薬物療法
15回	代謝疾患⑥	療養指導

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業中の説明を良く聞き、理解を深める
------	----------	-------------	--------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 s-takase@nichireha.ac.jp		

科 目	理学療法技術論 I		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒木 光		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	実務経験 20年以上、総合病院・整形外科クリニック・地域にて活動している専門家が講義・実技演習をおこなう。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	この授業では筋骨格系の障害に対する評価と治療を講義と実技を通して解説する。理学療法士に必要な観察眼と思考力の向上を高めることが目的である。理学療法の治療手技は関節モビライゼーション、筋緊張リラクゼーションテクニック、コアトレーニングなどを総合的に学ぶ。 授業方法は講義が50%、実技演習が50%である。		
到達目標	姿勢と動作の評価を行い、それを説明できるようになる。 治療技術について関心を持ち、患者モデルの問題にあった治療手技を選択することができる。		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	概論	筋骨格系理学療法の考え方
2回	概論	Janda アプローチとDynamic Neuromuscular stabilization (DNS)
3回	身体機能評価	視診のデモ、立位姿勢を見る
4回	身体機能評価	視診、比較して学ぶ
5回	身体機能評価	運動評価、関節の機能
6回	身体機能評価	運動評価、筋の長さ
7回	身体機能評価	運動評価、筋の長さ
8回	身体機能評価	運動評価、協調動作の観察とテスト
9回	理学療法の治療	ストレッチ、Post Isometric Relaxation
10回	理学療法の治療	ストレッチ、Post Isometric Relaxation
11回	理学療法の治療	DNS
12回	理学療法の治療	DNS
13回	理学療法の治療	全身協調性のエクササイズ
14回	理学療法の治療	評価と治療の体験（3人1組で実施）
15回	理学療法の治療	評価と治療の体験（3人1組で実施）

成績評価	レポート課題100% 授業時間数の3分の1以上 欠席した者は試験は受験させず、単位を与えない	受講上のルール 留意点	動きやすい服装（半袖、短パン）、観察しやすい服装を用意ください。ジーパンや体の線が見にくい服装は控えてください。 お互いの身体を利用しながら学習をおこないますので、互いに気遣いましょう。
------	--	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業の疑問点について、授業シートでFBする。

	書名	著書名	出版社名
教科書	資料配布		
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 h-kuroki@nichireha.ac.jp		

科 目	理学療法技術論Ⅳ（PNF）		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	内山結城		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	内山結城：実務経験17年。IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト 理学療法士として、回復期病棟・外来に勤務した後に責任者として急性期病院に勤務。その後慢性期施設にて責任者として老健・デイケアの運営や訪問リハの立ち上げも経験する。現在はスポーツトレーナー（競泳等）としてもスポーツ整形外科クリニックに関わりながら選手のケアやパフォーマンス向上に携わっている。前述した実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	学生は解剖学・生理学・運動学でも学んだ「専門基礎」を基盤とした上で、「固有受容感覚を刺激する」ことで対象者を促通していく方法を身につける。 本授業は「講義」、「実技（グループワーク含む）」で構成される。		
到達目標	①PNFが生まれた背景およびフィロソフィーを説明できる。 ②PNFが特殊技術ではなくコンセプトであることを理解し治療に応用することができる。 ③学生は疾患を想定し、PNFコンセプトを利用したうえで、個人およびグループ内で与えられた責任・役割をこなすことができる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論	PNFの歴史と概要、フィロソフィー
2回	基本原理①	虫様筋握り、タッチ
3回	基本原理②	内・外受容性刺激
4回	肩甲帯と骨盤帯パターン	前方挙上、後方下制 イニシエーションとレプリケーション
5回	肩甲帯と骨盤帯パターン	前方下制、後方挙上 イニシエーションとレプリケーション
6回	上肢パターン	伸長刺激、牽引、内・外受容性刺激、ストレッチテクニック
7回	下肢パターン	コンビネーションアイソトニック、強調のタイミングを用いながら
8回	様々なパターン	チョッピングおよびリフティング、スラストパターン
9回	間接的アプローチ	ポジティブアプローチ（NO PAIN） リラクゼーションテクニック
10回	間接的アプローチ	ポジティブアプローチ（NO PAIN） イラディエーションと強化
11回	マットアクティビティー	寝返り、うつ伏せ、起き上がり イニシエーションとレプリケーション
12回	マットアクティビティー	膝立ち、立ち上がり スタビライジングテクニック
13回	歩行	歩行誘導、LR, MST、TST, PSW
14回	応用歩行	後方移動、側方移動、グルーディング
15回	まとめ	総復習

成績評価	定期試験：発表 10%、小テスト40% 筆記試験40%	受講上のルール・留意点	服装 ：上下ジャージ（短パン、Tシャツも可）、もしくは上下白衣でマスク着用、アクセサリ等貴金属を外す、髭は剃り、長い髪は束ねる スマートフォン ：授業中は禁止（鞆に入れておく） 授業前準備：PC、プロジェクターにPC画面が映し出され、マイクはスピーカーから音が出る状態にしておく（授業前に内山にプリント等確認にくること） 授業に向かう姿勢 ：授業開始の号令から出席確認の間は私語厳禁（終礼時も同様）授業を妨げるような不真面目反抗的な態度は慎むこと

%

課題やレポートに関するフィードバック
実技に関するフィードバックは実技練習中、練習の後、個別または全体に対して適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床に役立つPNF	松田 現	運動と医学の出版社
オフィスアワー	担当授業の前後		

理学療法学科 昼 間 部				
科 目	臨床見学実習 II		単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	理学療法学科教員		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関に従事しています。		
	理学療法士			
授業の位置づけ	臨床見学実習IIでは、1年次・前期科目で学習したリハビリテーションの役割、理学療法士の仕事内容、について実際に理学療法士の下で考え方や治療法などを実習する。 基礎医学・検査法を学んで理学療法士の施設での役割や仕事内容を見学することにより、自身の将来像を思い描き、どのような理学療法士を目指すのか目標を立てる3年次につなげる。 臨床見学実習IIでは主に医療機関、介護福祉施設や通所介護・訪問リハなどの見学実習となる。			
到達目標	臨床現場では、実習生であっても礼節や態度、挨拶や身だしなみ等に気を付け、社会人として常識のある行動・態度で臨むことが求められる。そのため、普段から医療人として相応しい接遇・態度・行動に気を付け普段の生活から実践することが求められる。前期の授業から臨床見学実習に出るための学習を行い、理学療法士の業務内容、医療者としての考え方などを復習したうえで実習に臨むこと。 1. 臨床現場の理学療法士の役割、具体的な仕事内容を説明できる。 2. 病院・介護・福祉現場で働く専門職としての心構えを理解し、説明できる。 3. この見学から何を得て、今後何に取り組むべきかを明確にし、説明できる。 4. 患者・利用者とのコミュニケーションを通じて、理学療法士に求められるものを学ぶ。			
授業形態	実習			
授業計画：実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点				
実習前 ①実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の教科書や講義資料のポイントを実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。 見学実習 ①臨床現場では理学療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習後発表では、実習中に学んだ点を整理し、発表すること。 ②面談後は成果物を書類にまとめ、提出すること。				
成績評価	実習地評価、実習後発表をもとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意点	臨床実習地での遅刻・早退・欠席は認めない。 実習指導者に対し報告・連絡・相談は必ず行う。 感染対策に対し、施設の規則に準じて行動する。	
課題やレポートに関するフィードバック				
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。 実習終了後、担当教員からもフィードバックを実施する。				
	書名	著書名	出版社名	
教科書	なし	学校配布資料		
参考書				
オフィスアワー	実習担当者・担任と連絡を取る			

理学療法 学科 昼間 部			
科 目	医学英語	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	黒木豊域	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	米国ユタ州プロボ市ワサチ・メンタルヘルスセンターでのセラピストの経験をもとに、クライアントと英語での対話の訓練を行ないます。	

授業の位置づけ	グローバル化するわが国において、外国人観光客・在留外国人は年々増加傾向にある。これに伴い、PT・OTが外国人患者への支援行う機会の増大が見込まれている。この科目では、PT・OTが、英語にて患者に接し、医療用語を用いてリハビリ現場で会話ができるようになることを目指す。すなわち、最初の接遇からはじまり、問診、説明、肢位の指示などの特定の状況における会話を英語でできるようになるために、ロールプレイ演習を行う。中学や高等学校教育の英語と異なり、会話する英語の習得を目標とし、毎回の授業は声を出して話すことに焦点が当てられている。また、人体や施術に関わる英語の専門用語を習得することも目標としている。		
到達目標	1．人体に関してや一般的な医療用語の英単語を覚え活用することができる 2．支援現場において用いることのできるフレーズを活用できる 3．支援現場における英会話を構成し、活用できる。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	Introduction	シラバスの説明、 ロールプレイ：笑顔と挨拶
2回	問診 1	ロールプレイ：痛む部位を聞いてみよう 次回の単語
3回	問診 2	ロールプレイ：痛みの種類や程度を聞いてみよう 単語テスト 1
4回	問診 3	ロールプレイ：痛みの経過を聞いてみよう 次回の単語
5回	肢位設定	ロールプレイ：基本的な肢位を指示してみよう 単語テスト 2
6回	評価 1	ロールプレイ：バイタルサインを確認しよう 次回の単語
7回	評価 2	ロールプレイ：自動稼動域を測定してみよう 単語テスト 3
8回	評価 3	ロールプレイ：筋力を測定してみよう 次回の単語
9回	評価 4	ロールプレイ：歩行評価をしてみよう 単語テスト 4
10回	移乗動作	ロールプレイ：移乗動作の練習をしてみよう 次回の単語
11回	治療	ロールプレイ：ホームエクササイズの指導 単語テスト 5
12回	Long Play	試験のためのロールプレイの計画
13回	Long Play	試験のためのロールプレイの練習
14回	試験	単語試験 とLong Play試験
15回	試験	単語試験 とLong Play試験

成績評価	ロールプレイ 30 単語テスト 25 定期試験 単語 25 Long Play 20 総合 100％から学校の評価規準に準じて成績評価とする。	受講上のルール・留意点	・英単語を覚える ・表情豊かに大きな声で発表する
------	---	-------------	-----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
ロールプレイは、ペアごとにの発表を評価票を用いて評価する。フィードバックは発表終了後に行なう。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話	三木貴弘ほか	MEDICAL VIEW
オフィスアワー	授業終了後		

		理学療法学科	昼間 部
科 目	解剖学Ⅳ	単位・時間数	1単位 ・ 30時間
担当講師	外部講師／PT教員	学 年	2年生及び3年生
実績経験	資格	大学医学部、歯学部解剖学講座の教員	

授業の位置づけ	本授業は大学医学部、歯学部のご協力のもと、「骨格系・筋肉系・神経系」を中心とした人体の基本構造を学び、三次元的に理解し、医の倫理、生命の尊厳を自ら学びとることを目標としている。 今まで学習した解剖学、生理学について、復習しておくこと。 大学施設にて「講義」「実習」を行う。		
到達目標	1．人体の構造と機能について、基本構造を説明することができる。 2．医療従事者を目指す者として、医の倫理を理解し、生命を尊厳を尊厳することができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	解剖見学実習①	「骨格系・筋肉系」の構造について
2回	解剖見学実習②	「神経系」の構造について
3回	事前学習	骨格、関節と靱帯
4回	事前学習	骨格、関節と靱帯
5回	事前学習	筋系
6回	事前学習	筋系
7回	事前学習	神経系
8回	事前学習	神経系
9回	事前学習	内臓系
10回	医の倫理①	医の倫理について
11回	医の倫理②	生命の尊厳について
12回	解剖見学実習③	骨格、関節と靱帯
13回	解剖見学実習④	筋系
14回	解剖見学実習⑤	神経系
15回	解剖見学実習⑥	内臓系

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	実習に臨むにあたり、礼節を保ち、医療従事者を目指す者として態度に十分気をつけること。
------	------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題について、フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	授業で使⽤した解剖学、生理学等の教科書		
参考書	授業で使⽤した解剖学、生理学等の教科書		
オフィスアワー	担当授業の前後		

理学療法学科 昼間部			
科目	社会学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	千田 佳遠里	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	人間が社会性を再び獲得する重要性を、国立障害者リハビリテーションセンターの勤務経験をふまえ、医学的リハビリから社会的リハビリの訓練過程の実例を示しながら講義に活用している。	
	高等学校教員社会一種免許		

授業の位置づけ	人間がいかにして社会的存在となり、市民社会の一員となっていくのか、家族集団を中心に社会集団を通して考察する。 社会事象を正確に捉え、自分と社会の関係をも把握していく。さらに、違いをもった人間どうしが共生できる社会について解説し学びを深めていく。		
到達目標	人間は社会の中でしか生きていくことができない。ゆえに、文化を学習し社会的人間となる意義と共生社会の重要性について理解できるようになる。		
授業形態	講義	対面	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーションと社会学	リハビリテーションは人間の尊厳と社会性を取り戻す働きかけ
2回	社会学とはどのような科学か	関係の科学社会学、社会の概念、社会学の成立、
3回	社会学の基本概念	集団の概念・類型、基礎集団と機能集団、社会学の対象領域、医療社会学
4回	コミュニケーション論	コミュニケーションのとり方、他者との出会い、グループワーク
5回	コミュニケーション論	効果的コミュニケーション、グループワーク、自己開示、相互理解
6回	人口減少社会を考える	日本の総人口、人口推計、感染症との共存
7回	社会的人間	社会的人間の形成、社会化の概念、文化の概念、パーソナリティーの概念
8回	社会的人間	文化の構造、顕在的文化・潜在的文化、言語的社会化
9回	社会的人間	文化の機能、パーソナリティーの形成、社会化のメカニズム、
10回	社会学で考える 人権	感性で捉える人権、人権とは何か、人権の三本柱、グループワーク
11回	社会学で考える 人権	差別の本質・構造、差別行為、多様性と異質性を受け入れる共生社会
12回	基礎集団 家族	家族の概念・特質、 家族形態の変動「核家族化・小家族化」
13回	基礎集団 家族	家族の実態「世帯構造と世帯状況、貧困世帯の現状」、家族の変動と現代化
14回	基礎集団 家族	家族機能の縮小化、家族の構造とジェンダーの視点
15回	日本の現状と抱える問題点	日本の人口動態・人口構造、少子高齢人口減少社会の動向、格差社会等

成績評価	試験50％、レポート50％ 原則として60点以上で合格とする	受講上のルール・留意点	授業時間の3分の1以上欠席した者には単位を与えない
------	-----------------------------------	-------------	---------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
必要に応じて対応する

	書名	著書名	出版社名
教科書	概要を冊子にしたもの及びPPT資料を配布		
参考書	放送大学 社会学入門、 人権読本-じんけんの詩、他	森岡清志、他 今野俊彦編著	NHK出版 明石書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	精神医学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	河邊 宗知	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験 22年 作業療法士として、精神科病院、精神科訪問看護、発達支援センターにて臨床を行う。また作業療法士養成機関で教員を努めている。	
	作業療法士/公認心理師		

授業の位置づけ	理学療法の臨床においても、精神障害を持つ患者や、高齢期の患者は多く、基本的な精神医学の知識は必要であると思われる。また、理学療法士国家試験においても、問題数も多く必要な知識であるといえる。 1. 精神障害に対して、症状の特徴、経過、基本的知識を習得する。 2. 精神障害者を同じ社会で生きる人として、全人的に理解し、将来的にリハビリテーションを提供する臨床家としてかかわるために基本的知識を習得する		
到達目標	精神医学の歴史および現状について説明することが出来る 主要な精神疾患の症状について説明することが出来る 精神疾患の経過や治療、生活上の困難さについて説明できる		
授業形態	講義	併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	精神障害と診断基準（従来の診断法と操作的診断法：ICD、DSM）、精神医学の歴史、脆弱性ストレスモデル
2回	総論	精神機能の障害と精神症状（意識、注意、知能、パーソナリティ、記憶、感情、自我障害、知覚障害、思考障害、病識）
3回	総論	てんかん（分類、症状）
4回	疾患論	依存症（アルコール、その他の物質使用障害、嗜癖行動障害）
5回	疾患論	認知症、高次脳機能障害
6回	疾患論	統合失調症①（主要な精神症状、精神症状の特徴）
7回	疾患論	統合失調症②（症状と生活障害、治療、リハビリテーション）
8回	疾患論	気分障害①（大うつ病）
9回	疾患論	気分障害②（双極性障害、その他の気分障害）
10回	疾患論	神経症性障害①（不安、強迫、ストレス関連障害、解離性障害）
11回	疾患論	神経症性障害②（身体表現性障害、その他の神経症性障害）生理的障害（摂食障害他）
12回	疾患論	パーソナリティ障害（パーソナリティ概説、ICD・DSMに基づく障害分類、治療・援助）
13回	疾患論	生理的障害（摂食障害、睡眠障害ほか）、行動の障害、性の障害
14回	疾患論	器質性精神障害（認知症ほか）
15回	総論	精神科リハビリテーション、コンサルテーション・リエゾン精神医学、多職種連携、精神専門療法、作業療法・理学療法との関連について

成績評価	定期試験80% 授業での課題、授業内での確認テスト20%	受講上のルール・留意点	授業内で適宜課題や知識確認テストを行うため、授業ごとにその内容の理解を深め、不明な点は質問をしていただきたい。
------	---------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
授業内容の理解を深めるため、授業内で課題の実施や、知識確認テストを行う。結果については、次回の授業で補足、フィードバックを行う予定。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第4版増補版	編集：上野武治	医学書院
参考書	授業毎の配布資料		
オフィスアワー	主として、授業内、授業前後の時間に質問を受け付ける。 必要に応じて、メールでの連絡をしていただきたい m-koube@nichireha.ac.jp		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	リハビリテーション医学概論Ⅱ	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	高瀬 慎輔 /石川 秀志	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	高瀬：理学療法士として、回復期病棟、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、訪問リハ、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士（高瀬） 文学博士・キャリアコンサルタント（石川）		

授業の位置づけ	リハビリテーション医学基礎知識修得。更には、リハビリテーションと深い関連を有する福祉・医療・保健等について知識の修得。		
到達目標	リハビリテーションの各論を知る前の概論を知り、医療福祉保健の知識習得さらに、理学療法士のかかわりについて理解する		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーションの定義	リハビリテーションの定義について復習する
2回	リハビリテーションにおけるPTの役割	ケース1
3回		ケース2
4回		ケース3
5回	リハビリテーションにおけるPTの役割	ケース4
6回		ケース5
7回		ケース6
8回	保健・福祉分野	社会福祉とは 憲法の13条・25条を考えてみる
9回		社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史
10回		社会福祉の歴史 ヨーロッパにおける社会福祉の歴史
11回		社会福祉法制と行財政
12回		最低生活保障と生活保護制度
13回		児童家庭福祉の課題
14回		障害者総合支援法 障がい者の自立と福祉
15回		高齢者の生活と福祉

成績評価	高瀬：レポートにて評価（50%） 石川：	受講上のルール・留意点	筆記用具ノートなどを準備して必要に応じて記録などをしましょう。
------	-------------------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
講義時間内もしくは講義後に対応

	書名	著書名	出版社名
教科書（高瀬）	なし（資料配布します）		
教科書			
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	公衆衛生	単位・時間数	1単位・ 15時間
担当講師	今井敏夫	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	大学において長年にわたり衛生・公衆衛生学並びに生理学の講義・実習に携わっていた。日本歯科大学 名誉教授	
	歯学博士 薬剤師		

授業の位置づけ	公衆衛生学は人間の疾病や健康の事象と環境要因との係わり合いを考究する科学である。ここでは家族、地域社会の背景を見極めることによって予防医学的、社会医学的視野を広げ、実践活動に役立つ知識を習得し将来の医療組織チームの一員となることを目標とする。		
到達目標	わが国の保健・医療・福祉の現状とその対策について、さらに関連する諸問題について考究できる能力を習得する		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	公衆衛生学概論	公衆衛生学の歴史、公衆衛生学の考え方、健康と疾病の概念
2回	予防医学	予防医学の概念（第1・2・3次予防）健康を左右する諸要因、健康増進・ヘルスプロモーションについて
3回	保健統計	わが国人口の現状、人口静態・動態統計、生命表について
4回	疫学概論	疫学の概念及び疫学の方法論について
5回	感染症の予防	わが国の感染症の現状とその予防対策について
6回	食品と健康	食品衛生の現状及び健康との関わり合いについて
7回	生活習慣病	生活習慣病の疫学と予防対策について
8回	環境と健康	環境問題と健康との関わり合い、生活環境、地球環境問題について

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない。
------	----------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	総合セミナー	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	高瀬 慎輔	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	理学療法士として、回復期病棟、急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、訪問リハ、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	今までに学んだ運動学の復習を通して理解を深めて評価実習につなげることができるようにする。 1. 歩行周期について説明できる。 2. 関節運動について説明できる。		
到達目標	運動学的知識を実習における統合と解釈に活用できる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	筋力と重力	筋の活動張力と重力
2回	筋力と重力	ベクトル
3回	モーメント	モーメント トルク
4回	身体とてこ	1～3のてこについて
5回	関節の形状	各形状について
6回	四肢と体幹の運動	肩甲帯
7回	四肢と体幹の運動	肩関節
8回	四肢と体幹の運動	肘関節
9回	四肢と体幹の運動	手関節 手根骨
10回	四肢と体幹の運動	体幹
11回	四肢と体幹の運動	股関節
12回	四肢と体幹の運動	膝関節
13回	四肢と体幹の運動	足関節 足根骨
14回	姿勢	姿勢とその制御
15回	歩行	歩行周期

成績評価	筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業中の説明を良く聞き、理解を深める
------	----------	-------------	--------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 s-takase@nichireha.ac.jp		

		理学療法学科	昼 間 部
科 目	病態運動学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	塩澤 和人	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	塩澤 和人： 実務経験 18年 理学療法士として、回復期・急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、教育機関に携わった実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	日常生活の中で、効率よく円滑に基本的動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）を行うことは重要である。整形疾患、中枢神経系疾患その他の疾患において基本動作獲得を目指すうえで、異常姿勢・動作の理解は不可欠である。この授業では、姿勢・動作分析をとおして異常姿勢や異常動作の仮説検証能力を身に付ける。		
到達目標	①障害によって起こる姿勢や運動の異常を分析し、原因を考えることができる。 ②改善に必要な治療プログラムの作成の手がかりを得ることができる。 ③異常姿勢や異常動作によって発生すると予想される二次的障害の対策の手がかりを得ることができる。		
授業形態	講義・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	姿勢分析	授業のオリエンテーション、姿勢分析のポイント
2回	動作分析	運動力学、動作分析のポイント
3回	寝返り	正常動作と異常動作
4回		演習
5回	起き上がり	正常動作と異常動作
6回		演習
7回	立ち上がり	正常動作と異常動作
8回		演習
9回	歩行	正常歩行と異常歩行
10回		演習
11回	整形疾患の症例検討	病態、異常動作、異常歩行
12回		演習
13回	中枢疾患の症例検討	病態、異常動作、異常歩行
14回		演習
15回	まとめ	総復習

成績評価	演習レポート：50% 筆記試験：50%	受講上のルール・留意点	演習ではジャージ、Tシャツ、短パン等の動ける服装で参加してください。
------	------------------------	-------------	------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
演習レポートは添削してフィードバックする。

	書名	著書名	出版社名
教科書	動作のメカニズムがよくわかる 実践 動作分析 第2版	監修：上杉雅之、編著：西守隆	医歯薬出版
参考書	標準理学療法学 病態運動学	編集：星文彦、新小田幸一、臼田滋	医学書院
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	理学療法研究法		単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	高林 礼子		学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験27年（総合病院・老人福祉施設・障害者施設・訪問等）の経験を踏まえて講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	リハビリテーションや理学療法における研究の意義を考え、研究に必要な基本的な知識や方法論を習得する。		
到達目標	研究の目的，研究様式，研究の流れ，方法について学ぶ．研究の倫理について学ぶ．文献の探し方，文献レビューの方法について学ぶ．また，模擬データを用いて，統計ツールにて検定を行う． 1．研究の一連の過程について説明することが出来る 2．各研究デザインの相違について説明することが出来る 3．研究倫理の重要性について説明することが出来る 4．文献レビューの重要性について説明し、文献検索を行うことが出来る 5．統計学の基本的事項（記述統計と推測統計、尺度、代表値、仮説検定等）について説明できる 6．統計ツールの基本的操作および統計ツールを用いて、基本的な統計処理を行うことが出来る		
授業形態	講義・演習		対面授業

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	研究の進め方	研究とは？ 研究デザインの基礎知識
2回	研究データの集め方	研究データとは 研究データの集め方
3回	文献検索	文献を探す方法 【課題】課題：文献検索演習（医中誌WEB等を用いて）
4回	研究計画書を作成	研究計画書の作成
5回	調査研究/質的研究	アンケート調査（質問項目，選択肢の作成）
6回	データの分析法	量的研究のデータ分析
7回	データの分析法	質的研究のデータ分析
8回	発表に向けて	まとめ パワポや論文のまとめ方

成績評価	レポート	受講上のルール・留意点	データの分析の際には、出来たらエクセルの入ったP Cを準備
------	------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
授業内容の理解を深めるため、必要に応じて、

	書名	著書名	出版社名
教科書	配布資料		
参考書	理学療法研究法	編著：対馬栄輝	石躍出版株式会社
オフィスアワー	授業前後 メールr-takabayashi@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間部			
科目	専門基礎医学演習Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	外来講師	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	長年医療現場で臨床と教育に携わってこられた医師、理学療法士から講義を実施します。	

授業の位置づけ	専門基礎医学演習Ⅰでは、今まで修学した内容を振り返る。 1. 今まで修学した科目を振り返り、知識および技術の習得を目指す。 この授業で習得した学習方法をPBLやOSCEに活用する。		
到達目標	今まで修学した知識と技術を再確認し、習得できる		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画			
回数	項目	講義内容	
1回 ～ 15回	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	検査測定セミナー（OSCE）	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	内山結城、塚本奈々子	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	・内山：実務経験17年。IPNFA(国際PNF協会)認定セラピスト。病院施設スポーツ整形クリニック等での経験後現在はスポーツトレーナーとしても選手のケアや技術向上に携わっている。	
	理学療法士	・塚本 奈々子 実務経験20年目。理学療法士として、総合病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う。	

授業の位置づけ	この授業では、基本的な理学療法評価法について、学生の小グループ（模擬患者・治療者・評価者役）に分かれて演習を行います。臨床実習Ⅰに必要なとなる知識・技術・コミュニケーションについて学習をする。臨床場面に即した患者を想定し、実践できるように講義・実技を行い 临床上必要な検査測定技能、機能障害に対する介入について学習する。 後日、臨床実習Ⅰに出る前に、各自に対して実技試験を実施します（日程は後日発表する）。		
到達目標	臨床に必要な知識・技術・態度について学習し実践できる。特にコミュニケーション能力は理学療法士にとって重要能力である。理学療法士に最低限必要な評価の検査測定法を身につけていること重要である。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業概要を説明し、グループの役割、OSCEの目的説明
2回		授業概要を説明し、グループの役割、OSCEの目的説明
3回	整形外科疾患①	整形外科疾患に対する検査項目の確認
4回	整形外科疾患②	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
5回	整形外科疾患③	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
6回	整形外科疾患④	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
7回	整形外科疾患⑤	整形外科疾患に対する検査項目の確認、演習
8回	中枢神経疾患①	中枢神経疾患に対する検査項目の確認
9回	中枢神経疾患②	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
10回	中枢神経疾患③	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
11回	中枢神経疾患④	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
12回	中枢神経疾患⑤	中枢神経疾患に対する検査項目の確認、演習
13回	総合演習	理学療法評価の総合演習
14回	総合演習	理学療法評価の総合演習
15回	まとめ	総括

成績評価	レポート100%	受講上のルール・留意点	服装：上下ジャージ（短パン、Tシャツも可）、もしくは上下白衣でマスク着用、アクセサリ等貴金属を外す、髭は剃り、長い髪は束ねる スマートフォン：授業中は禁止（鞄に入れておく） 授業前準備：PC、プロジェクターにPC画面が映し出され、マイクはスピーカーから音が出る状態にしておく（授業前に内山にプリント等確認にくること） 授業に向かう姿勢：授業開始の号令から出席確認の間は私語厳禁（終礼時も同様）授業を妨げるような不真面目反抗的な態度は慎むこと
------	----------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。

	書名	著書名	出版社名
参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版	監修 才藤 栄一	金原出版株式会社
	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定法編 第2版補訂版	監修 才藤 栄一	金原出版株式会社
	OSCE/Post-CC OSCEに役立つ 医学生のための基本的臨床手技	車谷 典男，古家 仁（監修）	診断と治療社
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 Mail：y-uchiyama@nichireha.ac.jp（内山）、n-tsukamoto@nichireha.ac.jp（塚本）		

		理学療法 学科	昼 間 部
科 目	運動動作解析学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	佐藤和世・塩澤和人	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	佐藤和世：実務経験22年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床、クリニックに勤務。実務経験を活かし事例を交えながら講義を行う。 塩澤和人：実務経験18年 理学療法士として、回復期・急性期病院、デイサービス、障害者福祉施設、介護予防事業、教育機関に携わった実務経験を活かし、事例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では、基本動作となる寝返り動作、起き上がり動作、起立・着座動作、歩行の4項目を観察し運動学的な用語を用いて説明できるを目的とする。基礎的な解剖とバイオメカニクスを用いて各動作を分析し問題点を探索できるとともに治療に繋がる実技を行う。		
到達目標	観察した動作を図や適切な用語を用いて記載できる・表出できる		
授業形態	講義、実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	姿勢分析	イントロダクション
2回	姿勢分析	臥位・坐位・立位姿勢の観察と分析
3回	寝返り動作分析	寝返り動作の観察と分析
4回	寝返り動作分析	寝返り動作の観察と分析
5回	起き上がり動作分析	起き上がり動作の観察と分析
6回	起き上がり動作分析	起き上がり動作の観察と分析
7回	起立・着座動作分析	起立・着座動作の観察と分析
8回	起立・着座動作分析	起立・着座動作の観察と分析
9回	歩行分析	歩行動作の観察と分析
10回	歩行分析	歩行動作の観察と分析
11回	寝返りの評価と介入	治療介入を含めた寝返り動作の評価
12回	起き上がりの評価と介入	治療介入を含めた起き上がり動作の評価
13回	起立・着座の評価と介入	治療介入を含めた起立・着座の評価と介入
14回	歩行の評価と介入	治療介入を含めた歩行の評価と介入
15回	まとめ	まとめの解説

成績評価	授業内での課題提出（100％）	受講上のルール・留意点	動きやすい服装で参加すること
------	-----------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
個別もしくは全体に必要な応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践	石井慎一郎	メジカルビュー社
参考書	動作練習 臨床活用講座 動作メカニズムの再獲得と統合	石井慎一郎	メジカルビュー社
オフィスアワー	授業前後およびメール 佐藤：k-sato@nichireha.ac.jp 塩澤：k-shiozawa@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間 部			
科 目	P B L セ ミ ナ ーⅢ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	塚本奈々子、高林 礼子、他 P T 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	・塚本奈々子：実務経験 2 0 年 理学療法士として、大学病院、地域の回復期、療養型病院、訪問リハ、デイケア、教育機関に勤務。実務経験を活かし、事例を交えながら講義を行う。 ・高林 礼子：実務経験 2 7 年 急性期病院、特養、通所、訪問の他、教育機関にも常勤として勤務。実務経験を活かし講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	臨床実習Ⅰへ向けて症例への評価～プログラム立案までを実際に行い、今まで学んだ医学的基礎知識や基礎的な理学療法評価への理解を深める。チームで共同して症例に取り組むことで共通の目的に向かって一緒に活動することを通して、 理学療法の専門職として社会に貢献するのに必要な連携の基盤づくりを行う。また、これまでの基礎学習で身につけたコミュニケーション能力やチームワークの重要性を通して、医療現場における専門職連携を理解する。		
到達目標	1．症例情報から評価項目を選択できる。 2．正確な検査を実施できる。 3．評価情報から問題点をICFにまとめられる。 4．評価結果からゴール設定、プログラムの立案ができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の目的と実施内容について 臨床実習Ⅰについて
2回	症例検討	上級生の症例検討に参加し、症例検討の方法を学ぶ
3回		
4回	様々な症例について 症例情報の整理と理解	症例情報を整理し、全体像をまとめる。症例に適した評価を実施する。
5回		〃
6回		〃
7回		〃
8回		〃
9回		〃
10回		〃
11回		〃
12回		〃
13回		〃
14回		〃
15回	まとめ	今回成長できた点を確認し、実習にむけて今後の課題を整理する

成績評価	課題や授業内小テスト	受講上のルール・留意点	ただ課題をこなすのではなく、10月からの実習での立ち振る舞いを意識して臨んでください。
------	------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書			
オフィスアワー	質問は基本的に対面で、授業中・前後にしてください。		

		学療法学科	昼間部
科 目	義肢装具学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	木下 修・石垣 栄司	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	義肢装具士として42年、製作・適合判定に従事していました。 理学療法士として32年、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関は大学・大学院などに従事していました。	
	理学療法士（33年） 義肢装具士（43年）		

授業の位置づけ	リハビリテーション関連職種では、理学療法士の装具治療に対する役割は重要になっている。 近年では、急性期より装具を治療の一環として処方されている。 治療で使用する装具の装着だけではなく、日常生活動作・応用動作に使用できるように適合・チェックアウトなど治療効果を上げる上で重要な役割を担っている。 そこで、より実践的な装具療法を学習し、基礎から応用性のある学習を解説する。 授業方法、義肢装具室で装具を触りながら講義・ディスカッションなどで授業を進める。		
到達目標	基礎疾患を理解した上で、障害と装具の基礎知識を学習する。 治療場面の多様化に対応できるように応用する能力をつける。 装具の概念などの基礎知識と構造と疾患の流れを理解する。		
授業形態	対面：座学：講義 実習（弾性包帯・歩行分析）		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	総論・概念	装具総論・概念・歴史
2回	各論：下肢装具	下肢装具総論・下肢の機能解剖学
3回		長下肢装具
4回		短下肢装具・シューホン装具
5回		膝・足関節装具
6回		その他の装具：免荷装具・股装具
7回	靴型装具	足部の解剖と機能解剖学について
8回		靴型装具各論
9回		インソール（足底板）
10回	体幹装具 頰椎装具 胸腰対装具 腰椎	体幹の解剖・運動の機能について
11回		頰椎・胸椎・腰椎について
12回		側弯症装具について
13回	上肢装具： 肩・肘装具 手関節・手指装具	上肢の解剖と運動の機能について
14回		肩・肘・対立・把持装具
15回	実技	弾性包帯・足底板

成績評価	課題レポート・小テスト 筆記試験で評価をします。	受講上のルール・留意点	積極的に行動し発言をしてください
------	-----------------------------	-------------	------------------

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学	高田治実	羊土社
オフィスアワー	授業時間以外で質問のある場合には、事前にメールで予約をしてください。 o-kinoshita@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間 部			
科 目	義肢装具学 II	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	石垣 栄司	学 年	3年生
実績経験	資格	実務経験33年。理学療法士として、総合病院・維持期病院・教育機関に勤務。総合病院ではPTとして義肢ソケットの作成、組み立て、アライメント修正などを行ってきた。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	切断は、脳卒中や骨折、呼吸循環疾患などと比べ学生時、また臨床場面でも遭遇する機会が少ない疾患である。そのため、学内での学習では構造・部品名、特殊な用語などイメージしにくい内容が多いものの、国家試験では毎年出題されている。 講義では、実際の義肢や動画を見ながら学習しイメージしやすいように説明する。 義足を覚える基本となる大腿義足では異常歩行(ダイナミックアライメント)に演習(グループワークと発表)を取り入れ異常歩行を理解してもらう。		
到達目標	切断の原因とその治療について説明できるようになる。 義足の種類・適合・アライメントについて理解する。 切断の評価を理解し、臨床場面で行えるようになる。 切断の理学療法を理解する。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	義肢学総論	歴史、疫学、原因、適応、切断高位と切断手技、支給サービス、義肢の分類(義手含)
2回	下肢切断の理学療法評価	形態測定、断端評価、筋力評価、関節可動域評価、感覚検査、疼痛評価、皮膚感応テスト
3回	義足の継手	股継手、膝継手、足継手、その他部品
4回	大腿義足ソケット	大腿義足ソケットの種類・特徴、懸垂装置、ソケットの評価
5回		
6回	大腿義足アライメント	ベンチアライメント、スタティックアライメント
7回		ダイナミックアライメント演習
8回		ダイナミックアライメント演習・発表
9回	下腿義足ソケット	下腿義足ソケットの種類・特徴、懸垂装置、評価
10回	下腿義足アライメント	ベンチアライメント、スタティックアライメント
11回	下腿義足アライメント	ダイナミックアライメント
12回	股義足、膝義足	股義足の種類と適合、股義足のアライメント、膝義足の種類と適合
13回	サイム・足部義足	サイム義足の種類と適合、サイム義足のアライメント、足部義足の種類と特徴
14回	下肢切断の理学療法	術前の理学療法、良肢位保持、断端管理、義足装着時期、術後の理学療法等
15回		

成績評価	筆記試験80% 演習・発表20% 授業時間数の2/3以上出席していない者には試験を受験させず単位を与えない	受講上のルール・留意点	積極的な参加を求めます。 詳細は初講日に説明します。
------	---	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に対して実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版	監修:高田治実/編集:豊田輝, 石垣栄司	羊土社
参考書			
オフィスアワー	月・火・木・金 メールでの連絡は随時 e-ishigaki@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	疾患別理学療法Ⅴ【脳性麻痺】	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	村木 正昭	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	理学療法士として病院に勤め、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方へ理学療法を実践してきた経験を活かし、実例を交えた情報提供と実技練習を多く盛り込んだ講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	脳性麻痺は、肢体不自由児の47.5%を占める。理学療法士が関わる発達障害領域の中で治療を提供する機会が最も多い疾患です。脳性麻痺児に関わる際に、理学療法士は運動獲得をサポートします。その中で、患児が自分で動けた時に見せる笑顔をたくさん引き出すこと、患児・保護者の気持ちを理解し共に支援していくことが求められます。「発達」に関する知識を提供し活かせる知識とするためにビデオをたくさん用いて解説し症例検討も行います。また、患児に安心感を感じてもらえるために「手当て」や「ポジショニング」の実技練習も行います。脳性麻痺を含む小児理学療法を「ハビリテーション（（これから）獲得する）」の視点から解説し、各領域の特徴も説明します。また、国家試験対策として過去問を通して解説していきます。		
到達目標	①脳性麻痺の定義、原因、症状、介入のポイント、特徴的な二次障害について説明することができる。 ②脳性麻痺のタイプに応じて、必要な評価項目を選択し説明することができる。 ③脳性麻痺を含む小児理学療法の特徴を理解することができる。 ④ビデオを用いた症例検討を通し観察した内容を記録し報告することができる。		
授業形態	講義・対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	小児理学療法概論	小児理学療法の特徴、評価の方法と進め方、臨床における枠組みの活用を学ぶ。定型運動発達を復習する。
2回	定型発達と評価・介入	全般的発達、筋・骨格系、神経系、呼吸・循環系、姿勢と粗大運動、歩行、目と手・上肢機能、日常生活活動と遊びの発達を学ぶ。評価と介入について知識を得る。
3回	脳性麻痺：概論・評価	定義・発生原因・症状・分類・早期介入の意義について、適切な用語を用いて説明できる。粗大運動能力の評価、反射・反応の評価、姿勢観察、摂食嚥下、保護者評価の内容と方法を学び選択することができる。
4回	脳性麻痺：介入	患者・家族中心のチームアプローチ、包括的な関わり、具体的支援方法を学び個別性を考慮した内容を選択することができる。
5回	ファシリテーションテクニック	愛護的触り方、動かし方を実技を通して学び、症状別の実技にも活かすことができる。
6回	痙直型１：概論	『痙性』について、上位運動ニューロン障害とし、病態の成人と小児の違いを適切な用語を使い説明できる。
7回	痙直型２：片麻痺	片麻痺を呈する対象児の歩行を分析し、その個別性をふまえて、治療目標を立てることができる。
8回	痙直型３：両麻痺・四肢麻痺	両麻痺、または四肢麻痺の脳性麻痺児の治療目標をたてることができる。
9回	痙直型４：両麻痺・四肢麻痺（実技）	脳性麻痺を想定し、姿勢制御を実技を通して演習する。
10回	動揺性姿勢筋緊張：概論１	動揺性姿勢筋緊張を呈するアテトーゼ型の原因・病態の違いを、適切な用語を使い説明できる。
11回	動揺性姿勢筋緊張：概論２	動揺性姿勢筋緊張を呈する失調型の原因・病態の違いを、適切な用語を使い説明できる。
12回	動揺性姿勢筋緊張３（実技）	アテトーゼ型の不随運動と失調型の測定障害に対する治療の立案を実技を通して演習する。
13回	重症心身障害児：NICU	重症新障害児の定義と新生児集中治療室（NICU）の役割について、適切な用語を用いて説明できる。NICUの姿勢管理を実技を通して学ぶ。
14回	小児整形疾患・二分脊椎・発達障害：概論	二分脊椎の機序と脳性麻痺との理学療法上の観点の違いを説明できる。
15回	環境調整・補装具・二次障害予防	対象者に対する家庭療育と、補装具などの活用について、ライフステージと二次障害予防の視点を踏まえて理解する。

成績評価	定期試験（筆記のみ）（6割） 授業中の小テスト（2割） 授業中の小レポート（2割）	受講上のルール・留意点	①定期試験は別日程にて実施 ②定期試験は筆記テストのみとする ③授業中の小テストは前講義分を翌講義時に実施予定 ④授業中の小レポートはビデオ症例検討をまとめる ⑤授業時間数の3分の1以上欠席したものには単位を与えない
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはコメントを記載し各自に返却する。フィードバックの要点は全体に伝える。

	書名	著書名	出版社名
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 小児理学療法学	藪中良彦、木元稔、坂本仁	メジカルビュー社
参考書	『脳性まひ児の家庭療育』第4版	Eva Bower	医歯薬出版
参考書	『アテトーゼ・失調・低緊張の評価と治療』		協同医書出版
参考書	『正常発達 脳性麻痺の治療アイデア』第2版	Jung Sun Hong	三和書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	理学療法技術論Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	畠山・村井・石垣		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	畠山：1985理学療法士免許取得。リハ施設の認可等に当たる。平成9年、鍼灸資格取得、同年より日本リハビリテーション専門学校勤務となる。 村井：実務経験30年。1992年より中枢疾患を中心とした病院で勤務。2005年に鍼師・灸師・あんまマッサージ指圧師を取得。その後教育機関で専任として勤務 石垣：理学療法士として33年。総合病院・維持期病院・教育機関に勤務。 総合病院ではPTとして義肢ソケットの作成，組み立て，アライメント修正などを行ってきた		
	畠山：理学療法士、鍼師・灸師 村井：理学療法士、鍼師・灸師・ 按摩マッサージ師			

授業の位置づけ	軟部組織系のインジケーターは痛みのコントロール。分節間の立ち直り反応を含めた張力としての筋緊張及び筋膜の関係を疼痛の制御を通じて、具体的に運動の変換を追求する。姿勢分析、運動分析を含めた動作分析の中で、仮説立証作業の一環として軟部組織への治療手技を学ぶ。		
到達目標			
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回		MTA総論・コースオリエンテーション
2回	筋調整 (MTA)	痛みの評価（原因となる筋の探し方）
3回		基本手技Ⅰ
4回		基本手技Ⅱ
5回		上肢の治療
6回		下肢の治療
7回	筋膜リリース	概論
8回		クロスハンドテクニック
9回		腰仙減圧Ⅰ・Ⅱ フォースクロージャー、フォームクロージャー
10回		横断面リリースと分節
11回		後頭課リリース、プルテクニック（U/E・L/E）
12回		体幹の治療
13回	神経モビライゼーション	U/E 正中、橈骨、尺骨神経
14回		L/E SLUMP test
15回	テーピング	トリガーポイントとスパイラルテープ、キネシオテープ

成績評価	レポート課題	受講上のルール・留意点	他者に対する礼儀と配慮、必要であれば補講又は実技練習を設ける
------	--------	-------------	--------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
メールでの添付にて提出、添削によるフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	妹尾チューニングアプローチ入門	高田 治実	今日同意書出版
参考書			
オフィスアワー	担当授業の前後		

科 目	理学療法技術論Ⅲ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒木光／雨宮淳／高橋浩平／桑島泰輔／鈴木章規		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	実績経験 20年以上、総合病院・整形外科クリニック・地域にて活動している専門家が講義・実技演習をおこなう。 黒木光：Movement links／DNS認定療法士、国際ボイタセラピスト 雨宮淳：オーソディックスソサエティー認定フットトレーナー 高橋浩平：栄養サポートチーム専門療法士（学会認定） 桑島泰輔：米国呼吸療法認定療法士 鈴木章規：Movement links／DNS認定療法士、国際ボイタセラピスト		
	理学療法士、他			

授業の位置づけ	この授業では筋骨格系の障害に対する評価と治療を講義と実技を通して解説する。理学療法士に必要な観察眼と思考力の向上を高めることが目的である。オムニバス形式で臨床内容を学ぶ。PTの視点からの栄養学、インソールの専門家による足・歩行の評価と足底挿板の作成、急性期病院の理学療法についておこなう。授業方法は講義が50%、実技演習が50%である。		
到達目標	姿勢と動作の評価を行い、それを説明できるようになる。 治療技術について関心を持ち、患者モデルの問題にあった治療手技を選択することができる。		
授業形態	講義・演習		併用授業

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	概論（鈴木章規・黒木）	筋骨格系障害の評価
2回	評価（鈴木章規・黒木）	発達運動発達をベースにした運動・姿勢観察
3回	評価（鈴木章規・黒木）	発達運動発達をベースにした運動療法
4回	薬学	薬学の基本
5回	薬学	薬学の基本
6回	薬学	疾患と薬物療法
7回	薬学	疾患と薬物療法
8回	栄養学（高橋浩平）	PTと栄養学の関わり
9回	栄養学（高橋浩平）	栄養学をどうPTの現場で使うか
10回	急性期（桑島）	ICUでのPTの仕事
11回	急性期（桑島）	実際の理学療法について
12回	足底板（雨宮・米村）	概論：足の評価と治療
13回	足底板（雨宮・米村）	評価
14回	足底板（雨宮・米村）	足底板作成
15回	足底板（雨宮・米村）	再評価・修正

成績評価	演習課題100% 授業時間数の3分の1以上 欠席した者は試験は受験させず、単位を与えない	受講上のルール 留意点	動きやすい服装（半袖、短パン）、観察しやすい服装を用意ください。ジーパンや体の線が見にくい服装は控えてください。 お互いの身体を利用しながら学習をおこないますので、互いに気遣いましょう。 足底板の作成時にご自身の靴を使いますので、中敷がある靴をご用意ください。（普段履いている靴で大丈夫です）
------	--	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業の疑問点について、授業シートでFBする。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	メールでの連絡は随時 h-kuroki@nichireha.ac.jp		

		理学療法 学科	昼 間 部
科 目	理学療法技術論Ⅴ【中枢】	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	佐藤和世	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	佐藤和世：実務経験22年 理学療法士として、急性期・回復期病院、療養型病床、クリニックに勤務。実務経験を活かし実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	中枢神経疾患に対する最新のリハビリテーション治療を理解する。神経発達学的治療を通して正常運動や姿勢反射を理解する。		
到達目標	中枢神経系理学療法の概要を説明できる 治療実技を実践できる		
授業形態	講義、実習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	脳卒中の概念 脳卒中の運動療法について
2回	各論	神経の可塑性と運動療法
3回	各論	運動学習理論
4回	各論	脳卒中の評価
5回	各論	最新リハビリテーション治療の使い分け
6回	各論	動作分析の仕方
7回	脳卒中後遺症者に対するボバースアプローチ	ボバース概念
8回		キーポイントオブコントロールと支持面
9回		急性期の病態を学ぶ
10回		急性期の病態に合わせた治療手技
11回		痙性期の病態を学ぶ
12回		痙性期の病態に合わせた治療手技
13回		適応回復期の病態を学ぶ
14回		適応回復期の病態に合わせた治療手技
15回	まとめ 臨床推論	脳卒中後遺症者の個別性の捉え方を学ぶ

成績評価	授業内の課題の提出（100％）	受講上のルール・留意点	実技に際しては動きやすい服装で参加する
------	-----------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
個別もしくは全体に必要な応じてフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	「脳卒中後遺症者へのボバースアプローチ～基礎編～（運動と医学の出版社の臨床家シリーズ）」	古澤正道 著・編集	運動と医学の出版社
参考書	脳卒中 理学療法の理論と技術	原寛美 吉尾雅春 編集	メジカルビュー社
オフィスアワー			

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	スポーツ臨床治療学	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	橋本 悠太	学 年	3年生・前期
実績経験	資格	実務経験 医療機関 13年	
	理学療法士	「理学療法士として運動器・整形外科疾患に対して行ってきた実務経験を活かし臨床での実践例を踏まえ講義を行う」	

授業の位置づけ	近年、国内のスポーツ人口は増え続けており、それに伴いスポーツに関連した傷害も増えてきた。整形外科分野においてもスポーツ傷害に対するリハビリテーションが重要視されてきている。理学療法士として臨床現場に立つ際に幅広い知識や技術を備え、対象者のニーズに応えられるようにすることをこの授業の位置づけとする。 この授業では講義形式で進めていくが、実技も交えながら臨床現場で役立つ実践的な内容を多く含んだ授業となる		
到達目標	整形外科領域の臨床現場で頻出するスポーツ障害に対する理解を深め、スポーツ分野での疾患に対応する知識と技術を向上させる		
授業形態	「講義・演習」	「対面授業」	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	スポーツ臨床治療の概論	総論 障害と外傷の違い、スポーツリハビリテーションの特徴、臨床推論の進め方
2回	膝関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	膝関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
3回	足関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	足関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
4回	股関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	股関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
5回	体幹のスポーツ傷害に対する評価と治療	体幹周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
6回	肩関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	肩関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
7回	肘関節のスポーツ傷害に対する評価と治療	肘関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ
8回	手のスポーツ傷害に対する評価と治療	手関節周囲のスポーツ疾患について臨床推論を用いて学ぶ

成績評価	授業態度20%	受講上のルール・留意点	・授業時間数の3分の1以上欠席したものには単位を与えない ・授業内の課題に関しては内容の理解度をチェックするものとして毎週の授業ごとに筆記形式で行う ・レポートは授業内容のまとめとして、A4レポート用紙に800字から1000字程度でまとめる内容とする。
	授業内課題30%		
	レポート50%		

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用	パワーズ・スコット（著）内藤久士 他（訳）	メディカルサイエンスインターナショナル
オフィスアワー			

科 目	理学療法管理学		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	臼杵 寛、下村 周平		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	下村：実務経験16年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 臼杵：実務経験23年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。		
	理学療法士			

授業の位置づけ	理学療法士を養成する教育内容が改正され、2020年度より新たに「理学療法管理学」が必修化された。理学療法士には臨床に関する知識や技術を習得する事は当然のこととして、得た知識や技術を対象者に提供する際に必要な管理、医療保険や介護保険に関する管理、その他情報やリスク、感染に関する管理や教育に関する管理など、様々な管理(マネジメント)が要求される。この授業では理学療法士に必要とされる様々な管理(マネジメント)について、講義と演習を通して学修する。		
到達目標	臨床実習前後に知っておくべき医療機関の分類と組織の機能、チーム医療について理解する。 理学療法業務に必要な医療保険制度、介護保険制度について理解する。 様々な業務における管理(業務、情報、リスク、感染、教育など)について理解する。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論と病院の分類・組織	理学療法管理学が必要とされる背景、病院の組織・部門とその機能
2回	専門職とチームケア	リハビリテーションに関わる専門職・事務職の役割と特徴、委員会とチーム
3回	専門職とチームケアの演習	項目に関するグループワーク・発表
4回	医療保険制度と介護保険制度	医療保険制度と介護保険制度の特徴・体系・サービス
5回	診療・介護報酬と収益構造	臨床におけるリハビリテーション料の算定、介護報酬・診療報酬の支払い、人件費とコスト
6回	診療報酬とコストの演習	項目に関するグループワーク
7回	診療報酬とコストの演習	項目に関する発表
8回	業務管理	理学療法士の業務の流れ、他職種との業務調整、労務管理など
9回	情報管理	診療記録・電子カルテなどの分類と管理、コミュニケーション技術
10回	リスク管理	医療・介護におけるコンプライアンス、インシデントとアクシデントなど
11回	リスク管理の演習	項目に関するグループワーク・発表
12回	感染症管理	感染と感染症の概要、感染症の予防、感染対策
13回	権利擁護と職業倫理	インフォームドコンセント、個人情報保護、職業倫理、ハラスメントなど
14回	卒前教育	診療参加型臨床実習、臨床教育
15回	卒後教育 PTの政治政策への関与	生涯学習、人事考課、就職活動、職能団体と政治への関与など

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	演習は積極的に取り組んでください。 詳細は初講日に説明します。
------	------------	-------------	------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に対して実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法管理学	長野 聖 (責任編集)	中山書店
オフィスアワー	下村：授業前後及びメール (s-shimomura@nichireha.ac.jp) 臼杵：授業前後及びメール (h-usuki@nichireha.ac.jp)		

		理学療法学科	昼間部
科目	地域理学療法学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	下村 周平	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験16年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では地域包括支援体制に帰属するリハビリテーションについて学ぶ。なかでも、理学療法分野の役割について学び、環境ごとに求められる理学療法の役割をその特徴を理解し、説明できるようになることを目的とする。 幅広い環境で理学療法を実践するために、チームアプローチを理解し、その規範に基づき行動するための理解が求められる。		
到達目標	1．地域リハビリテーションについて理解し説明することができる 2．その中での理学療法士の役割や実務を理解し説明することができる 3．地域の中での多職種連携やチームアプローチを理解し説明することができる		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論 地域理学療法学①	地域理学療法とは
2回	総論 地域理学療法学②	地域理学療法と関連する制度の変遷
3回	総論 地域理学療法学③	地域包括ケアについて
4回	各論 地域理学療法学④	障害者総合支援法
5回	各論 保険制度①	介護保険制度①仕組み
6回	各論 保険制度②	介護保険制度②給付
7回	各論 介護保険サービス①	通所リハの機能と理学療法士の役割
8回	各論 介護保険サービス②	通所介護、短期入所等
9回	各論 介護保険サービス③	訪問リハの機能と理学療法士の役割
10回	各論 介護保険サービス	訪問、介護予防事業、総合事業
11回	各論 介護保険サービス	介護老人保健施設、介護老人福祉施設の機能と理学療法士の役割
12回	各論 介護保険サービス	疾患別にみる地域理学療法の特徴
13回	各論 介護保険サービス	災害支援における理学療法士の関わり
14回	各論 連携・対人支援技術	多職種連携・対人支援技術
15回	各論 連携・対人支援技術	終末期の関わり方

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	演習には積極的に参加すること
------	------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に実施。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	適宜紹介		
オフィスアワー	下村：授業前後及びメール（s-shimomura@nichireha.ac.jp）		

理学療法学科 昼間部			
科目	地域理学療法学演習	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	下村 周平、臼杵 寛	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	下村：実務経験16年（病院、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。 臼杵：実務経験23年（病院、老健、通所、訪問、予防事業等）の経験を踏まえ、実例を交えながら講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	この授業では、対象者が病院や施設から住み慣れた場所（自宅）へ移行する上で必要な介護保険や生活環境整備などの知識などを整理し、実際の場面にて使える知識としていきます。 また、その知識をもとに様々な手続きの手順や方法について演習を行い理学療法士としての関わり方や支援方法について学びます。		
到達目標	1. 地域包括ケアを理解し、実際に使える知識を養う。（ケアプランの模擬作成） 2. 生活環境整備の目的や評価について理解し、手順や具体的な方法について説明できる。 3. 住宅改修や福祉用具導入の目的を理解し説明できる。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
2回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
3回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
4回	住宅改修 演習	家屋評価、住宅改修の演習
5回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ
6回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ
7回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ
8回	ケアプラン作成	実際にケアプラン作成を行い、支援方法の考え方を学ぶ

成績評価	レポート課題100%	受講上のルール・留意点	演習には積極的に参加すること
------	------------	-------------	----------------

課題やレポートに関するフィードバック
適宜、個人及び全体に実施。

	書名	著書名	出版社名
教科書	参考書などは適宜紹介		
オフィスアワー	下村：授業前後及びメール（s-shimomura@nichireha.ac.jp） 臼杵：授業前後及びメール（h-usuki@nichireha.ac.jp）		

理学療法学科 昼 間 部			
科 目	生活環境論	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	高林 礼子	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	実務経験27年（総合病院・老人福祉施設・障害者施設・訪問等）の経験を踏まえて講義を行う。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	私たちの生活に密着した広範囲な視点から理学療法学を考えることで、日々の暮らしに役立つ理学療法士を教育していく。		
到達目標	日常生活活動の一要素である生活環境を住宅及び福祉用具の視点から再考し、新しい分野である生活環境学を理解できる。		
授業形態	講義及び演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	概論	生活環境のとらえ方 と日本における生活環境の特徴と課題
2回	法制度	生活環境整備に関する法制度
3回	介護保険	介護保険における福祉用具と住宅改修
4回	生活環境整備 総論	生活環境整備の進め方
5回	生活環境整備 各論	生活環境整備の基本〔段差・スペース・床材・手すり・建具〕
6回	生活環境整備 各論	玄関・アプローチ・廊下・階段の環境整備
7回	生活環境整備 各論	トイレの環境整備
8回	生活環境整備 各論	浴室・脱衣室の環境整備
9回	生活環境整備 各論	台所・食堂・居間・寝室の環境整備
10回	生活環境整備 実際	疾患別環境整備①〔中枢神経障害〕 グループワーク
11回	生活環境整備 実際	疾患別環境整備②〔運動器障害〕 グループワーク
12回	生活環境整備 実際	地域における住環境整備と交通 グループワーク
13回	課題発表	レポート発表
14回	福祉用具の見学	国際福祉機器展見学
15回		

成績評価	定期試験：7筆記試験、レポート	受講上のルール・留意点	確認テスト、グループワークに参加しないと加点されないので、欠席しないこと。
------	-----------------	-------------	---------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著者名・出版社	
参考文献	教科書：『標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学』 参考書：『生活環境学テキスト』	鶴見隆正 編集 医学書院	医学書院
		細田多穂 監修	南江堂
オフィスアワー	授業前後、メールr-takabayashi@nichireha.ac.jp		

理学療法学科 昼間部			
科 目	臨床実習 I	単位・時間数	8単位・360時間
担当講師	理学療法学科教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関などに従事しています。	
	理学療法士		

授業の位置づけ	学内で学んできたことを医療・介護・福祉の実習施設において、症例を担当し、理学療法で取り扱う主な疾患と障害の評価を通して、対象者の抱えている問題点の抽出を実施し、対象者にとって適切となる治療プログラムの作成ができる。 その際、評価項目の抽出法や問題点に対する解釈・統合について、根拠を持って指導者に説明ができる。		
到達目標	医療機関や介護施設内で実習生としての立場を自覚しながら学ぶことができる。 対象者の抱える問題に対し評価項目の抽出ができる。 評価の結果から解釈統合し、問題点に対するゴール、治療プログラムの作成ができる。 1. 実習指導者へ適切な報告・連絡・相談を行い、患者・利用者に対して適切な態度で接することができる。 2. 選択した評価項目を適切な方法で、患者・利用者の状態を管理しながら評価を実施できる。 3. 検査測定の結果と対象者の動作を関連付けて統合解釈し、ゴール設定ができる。 4. 対象者に必要となる治療プログラムの作成ができる 5. 評価結果をわかりやすく指導者や患者・利用者に説明ができる。その際疑問・質問に対し対応できる。 6. 指導者からの指導に対し謙虚に受け取り、修正と改善ができる。		
授業形態	臨床実習		

授業計画			
理学療法の評価実習では、評価に関する検査測定の知識、技術を実習指導者の下で、担当症例に対し、一連の評価項目の抽出（カルテからの情報収集、問題点の考察、検査測定からの統合と解釈に基づく問題点の抽出）を通して、臨床問題解決能力と実践能力を実施する。 1. 実習前学習：評価実習で必要な知識・技術の定着を図る。 ① PBL学習において症例に対する問題解決能力を学習する。 ② OSCEによって技術の能力を評価する。 2. 評価実習（全国の医療施設・介護施設で実施する） 1) 患者・利用者に適切な検査測定の選択し評価を実施する。 2) 他部部門から患者・利用者に必要な情報収集を実施する。 3) 評価および情報収集から得られたデータをもとに統合と解釈ができる。 4) 得られたデータを整理・記録し、ゴール設定を実施する。 5) 対象者に必要となる治療プログラムの作成ができる。 （その際、実習指導者へ説明し、アドバイスをもらうことができる） 3. 実習地での報告会や学内発表で自身が経験・体験した内容について報告を行う。 4. 臨床実習Ⅱ（総合臨床実習）に向けて担当教員からフィードバックを受け、次の実習につなげる。			

成績評価	臨床実習地の総合的評価 実習後の学内発表を総合的評価する。	受講上のルール・留意点	臨床実習地での遅刻・早退・欠席は認めない。 実習指導者に対し、報告・連絡・相談は必ず行う 感染対策に対して、施設の規則に準じて行動する
------	----------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。 実習終了後、担当教員からもフィードバックを実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床実習手引き	学校の資料	
参考書			
オフィスアワー	各実習担当教員・担任		

理学療法学科 昼間部			
科目	専門基礎医学演習Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	外来講師	学 年	4年生 後期
実績経験	資格	長年医療現場で臨床と教育に携わってこられた医師、理学療法士から講義を実施します。	

授業の位置づけ	専門基礎医学演習Ⅱでは、今まで修学した内容を振り返る。 1. 今まで修学した科目を振り返り、知識および技術の習得を目指す。 この授業で習得した学習方法をPBLやOSCEに活用する。		
到達目標	今まで修学した知識と技術を再確認し、習得できる		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画			
回数	項目	講義内容	
1回 ～ 15回	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	基礎医学	解剖学・生理学・運動学	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	臨床医学	整形外科・中枢神経疾患・精神医学・心理学など	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
	理学療法	理学療法の評価と技術	
成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	グループワークがメインとなるため他者に迷惑を かけないことを常に心がけること

課題やレポートに関するフィードバック
レポート課題は、授業中全体に対しフィードバックし、レポートは個別に対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		理学療法 学科	昼 間 部
科 目	理学療法特論 I	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	PT全教員	学 年	4年生 後期
実績経験	資格	実務として総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・デイサービス・保健所・教育機関	
	理学療法士		

授業の位置づけ	人体を理解し、骨・筋・軟部組織等あらゆることを考慮しながら有効なアプローチを探していかなければならない。その土台となる解剖学の基礎知識を臨床実習が終了したタイミングで再度復習として実施し、基礎知識を定着させるための授業となる。		
到達目標	骨・関節の構造について理解できる 筋の起始・停止について理解できる 内臓の構造について理解できる		
授業形態	演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回 ～ 30回	中枢神経（脳）①	脳の構造
	中枢神経（脳）②	脳の機能
	中枢神経（脊髄）③	錐体路
	中枢神経（脊髄）④	錐体外路
	脳神経①	各神経と核について
	脳神経②	各神経の支配
	末梢神経	各名称と機能
	脳血管	支配領域
	循環器①	循環器の構造
	循環器②	循環器の機能
	内臓諸器官①	各臓器の構造
	内臓諸器官②	各臓器の機能
	神経筋支配	各筋の支配神経
	筋・靱帯	筋の構造と靱帯構造
	発生と組織	各組織について

成績評価	定期試験：筆記試験100％	受講上のルール・留意点	グループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけることを常に心がけること
------	---------------	-------------	--------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
全体にフィードバックする

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー			

		理学療法 学科	昼 間 部
科 目	理学療法特論Ⅱ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	PT全教員	学 年	4年生 後期
実績経験	資格	実務として総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・デイサービス・保健所・教育機関	
	理学療法士		

授業の位置づけ	理学療法士として臨床でリハビリテーションを実施するにあたり、人体生理学を十分に理解することが求められる。人体を理解し、骨・筋・軟部組織等あらゆることを考慮しながら有効なアプローチを探していかなばならない。その土台となる生理学の基礎知識を臨床実習が終了したタイミングで再度復習として実施し、基礎知識を定着させるための授業となる。 1. 人体生理学について理解が深められる 2. これらの基礎知識を獲得することで、理学療法における問題発見・解決力や治療アプローチの理解を深める		
到達目標	運動時の生体反応について理解し、リハ施行時のリスク管理について根拠に基づいて説明できる		
授業形態	演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回 ～ 30回	体温	体温調節について
	基礎代謝	基礎代謝に影響するもの
	エネルギー代謝	運動時のエネルギー代謝
	免疫①	免疫に関わる機能
	免疫②	免疫応答に関する細胞
	呼吸①	呼吸の種類
	呼吸②	呼吸調節
	呼吸③	運動時の努力呼吸
	循環①	心拍出量に影響するもの
	循環②	心拍数、血圧に影響するもの
	循環③	運動時の循環制御
	消化器①	消化酵素の作用
	消化器②	消化酵素の分泌部位
	排尿	排尿のしくみ
	排便	排便のしくみ

成績評価	定期試験：筆記試験100％	受講上のルール・留意点	グループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけることを常に心がけること
------	---------------	-------------	--------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
全体にフィードバックする

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー			

		理学療法 学科	昼 間 部
科 目	理学療法特論Ⅲ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	PT全教員	学 年	4年生 後期
実績経験	資格	実務として総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・デイサービス・保健所・教育機関	
	理学療法士		

授業の位置づけ	理学療法士として臨床でリハビリテーションを実施するにあたり、身体の構造と機能とがどのように関係しているのかを理解する必要がある。その土台となる運動学の基礎知識を臨床実習が終了したタイミングで再度復習として実施し、基礎知識を定着させるための授業となる。 1. 運動学について理解が深められる 2. これらの基礎知識を獲得することで、理学療法における問題発見・解決力や治療アプローチの理解を深める		
到達目標	運動器の構造を理解し、運動時の機能と結びつけて説明できる		
授業形態	演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回 ～ 30回	機能解剖学①	上肢帯と上肢の運動
	機能解剖学②	下肢帯と下肢の運動
	機能解剖学③	体幹の運動
	機能解剖学④	顔面および頭部の運動
	動作解析①	関節運動
	動作解析②	筋活動 筋収縮の様式
	姿勢①	重心
	姿勢②	姿勢戦略
	歩行①	歩行周期
	歩行②	歩行時の運動学的分析
	歩行③	歩行時のエネルギー代謝
	運動制御①	外的要因
	運動制御②	随意運動
	運動学習①	記憶
	運動学習②	神経回路

成績評価	定期試験：筆記試験100％	受講上のルール・留意点	グループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけることを常に心がけること
------	---------------	-------------	--------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
全体にフィードバックする

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー			

		理学療法 学科	昼 間 部
科 目	理学療法特論Ⅳ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	PT全教員	学 年	4年生 後期
実績経験	資格	実務として総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・デイサービス・保健所・教育機関	
	理学療法士		

授業の位置づけ	臨床での理学療法においては、取り扱う疾患は多岐にわたる。臨床医学におけるそれぞれの領域について、臨床実習が終了したタイミングで再度復習として実施し、理学療法における問題発見・解決力や治療アプローチの理解を深める。		
到達目標	それぞれの分野における疾患の特徴を説明できる		
授業形態	演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回 ～ 30回	骨関節障害①	骨・軟骨
	骨関節障害②	脊椎・脊髄
	骨関節障害③	慢性関節疾患
	神経・筋障害①	虚血性脳血管障害
	神経・筋障害②	出血性脳血管障害
	神経・筋障害③	変性疾患
	神経・筋障害④	脱髄性疾患
	神経・筋障害⑤	末梢神経疾患
	内部障害①	循環器疾患
	内部障害②	呼吸器疾患
	内部障害③	消化器疾患
	内部障害④	代謝性疾患
	精神障害①	統合失調症
	精神障害①	神経症性障害
	小児疾患	遺伝学、先天性疾患など

成績評価	定期試験：筆記試験100％	受講上のルール・留意点	グループワークがメインとなるため他者に迷惑をかけることを常に心がけること
------	---------------	-------------	--------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
全体にフィードバックする

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー			

科 目	臨床実習Ⅱ	単位・時間数	16単位・720時間
担当講師	理学療法学科教員	学 年	4年生
実績経験	資格	実務として、総合病院（急性期・回復期）・クリニック・老健施設・特養・訪問・ディサービス・保健所・教育機関	
	理学療法士		

授業の位置づけ	臨床実習Ⅱは、医療・福祉の施設での検査測定実習と治療実習を通して診療チームの一員として診療に参加し、基本的なリハビリテーション実施能力、理学療法実施能力を修得する。 1. 急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、地域（老人保健施設、通所施設）リハビリテーション、在宅（訪問）リハビリテーションの実際を経験し、その意義、必要性と役割について修得する。 2. 全人的リハビリテーションを実施する際に必要な知識と技術を修得する。 3. 最後の臨床実習として積極的行動し、専門職として相応しい態度・コミュニケーションで臨むこと。
到達目標	これでの臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：1・2年次、検査測定実習：2年次、臨床実習Ⅰ：3年次）で積み上げてきたコミュニケーション能力、理学療法検査能力をもとに、指導者の指示のもと基本的理学療法が実施できることを目標とする。 まとめの臨床実習として、評価の検査・測定および患者像に対する評価を適切に実践し、問題点や患者情報から統合・解釈することによって問題点を抽出し、理学療法プログラムの立案および実施を学習する。 ①理学療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②医療安全についての基本事項を理解し、実践することができる。 ③状況に応じて、必要なタイミングで指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。 ④基本的な理学療法実践能力： （患者・スタッフ等とのコミュニケーション、医療面接、理学療法、多職種連携）を修得する。 ⑤理学療法で必要なカルテ記載、情報提供書や申し送り書に触れ、実際に体験する。 ⑥診療の現場におけるカンファレンスに参加し、報告できる。 ⑦情報の入手法（論文検索）、適否の判断、診療への応用について、指導者と検証する。 ⑧機会があれば、学会や講習会、講演会等に参加する。

授業形態	臨床実習	
------	------	--

成績評価	臨床実習地の総合的評価 実習後の学内発表を総合的評価する。	受講上のルール・留意点	臨床実習地での遅刻・早退・欠席は認めない。 実習指導者に対し、報告・連絡・相談は必ず行う 感染対策に対して、施設の規則に準じて行動する
------	----------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。 実習終了後、担当教員からもフィードバックを実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床実習手引き	学校の資料	
参考書			
オフィスアワー	各実習担当教員・担任		